

令和7年9月3日（水） 午前10時開議

○ 議事日程（第2号）

1 一般質問

○ 本日の会議に付した事件……議事日程に同じ

○ 出席議員次のとおり（13名）

2番	畔上恵子君	9番	渡辺正男君
3番	小林仁君	10番	湯本晴彦君
4番	志鷹慎吾君	11番	山本光俊君
5番	塚田一男君	12番	小林克彦君
6番	湯本るり子君	13番	小田孝志君
7番	徳竹栄子君	14番	白鳥金次君
8番	高田佳久君		

○ 欠席議員次のとおり（なし）

○ 職務のため議場に出席した議会事務局職員の職氏名次のとおり

議会事務局長	鈴木明美	議事係長	宮崎敏之
--------	------	------	------

○ 説明のため議場に出席した者の職氏名次のとおり

町長	平澤岳君	教育長	竹内延彦君
副町長	久保田敦君	こども未来課長	望月弘樹君
総務課長	古幡哲也君	生涯学習課長	山本佳史君
未来創造課長	堀米貴秀君	経済振興課長	田村清志君
農林振興課長	金井哲也君	危機管理課長	田中浩幸君
建設水道課長	高木和彦君	住民税務課長	湯本豊君
消防課長	高相一夫君	健康福祉課長	小林佳代子君
会計管理者	小林知之君		

(開 議)

(午前10時00分)

議長(白鳥金次君) おはようございます。本日はご多忙のところご出席をいただきありがとうございます。
ございます。

ただいまの出席議員数は13名です。したがって、会議の定足数に達しておりますので、本日の会議は成立しました。

これより本日の会議を開きます。

1 一般質問

議長(白鳥金次君) 本日は日程に従い、一般質問を行います。

質問時間は、1人25分であります。質問者は25分以内に質問を終了するようお願いします。

質問時間終了の予告は、終了2分前と終了時に行います。また、質問は登壇して行っていた
だき、再質問は質問席で行ってください。

次に、理事者、管理職の皆さんにお願いします。質問に対する答弁は、要旨を十分把握され、
簡潔明瞭にお願いします。

また、反問権の行使は、再質問時に認めます。議員の質問に対し反問される場合は、必ず発
言前に「反問します」と声をかけた上で反問してください。

本日の一般質問は4名です。質問通告書の順序に従い質問を許します。

10番 湯本晴彦議員の質問を認めます。

10番 湯本晴彦議員、登壇。

(10番 湯本晴彦君登壇)

10番(湯本晴彦君) 皆さんおはようございます。10番創門会湯本晴彦です。

しばらく一般質問をする機会から離れましたが、また後期、ここからできる限り一般質問を
していけたらと思っております。

また、今回、前々回、前回と引き続きトップバッターとなりました。3回連続のトップバッ
ターです。ドジャースの大谷選手が1番バッターですが、強打者だから1番に置くとも言われ
ております。私も強打者となれるよう頑張りたいと思っております。

さて、日本のインバウンド客の数が近年伸びております。JTBの調べでは、今年4,000万
人を超える4,020万人と予測しています。これは昨年対比9%増の数字ですが、1月から6月
の半期の確定数値を見ても、既に前年比21%増となっているので、恐らくJTBの数字を上回
るのでないかと予測できます。

その日本のインバウンドがなぜ強いかというと、もう一度行きたいというリピート性の高さ
だと言われています。それだけ日本という国が飽きなくて面白い場所だということが言える
と思います。

山ノ内町も何度も来たくなるような、そんな飽きさせない観光地を目指していけたらと願い、
一般質問をさせていただきます。

それでは、通告書に従い質問をします。

1、町長の今後の町政ビジョンについて。

(1) 町長の公約どおり事が進んでいるのか。

①開かれた町政は。

②子育てしやすいまちづくりは。

③稼げる農業は。

④しっかり経済活性化は。

⑤健康長寿日本一は。

⑥トップセールスによる観光立町の復権は。

(2) 町長給料30%カットをやめた理由は。

(3) 孫たちが帰ってきたくような町にするために。

①これまで何をしてきたか。

②今後何をしていくのか。

(4) 総合計画と観光交流ビジョンの整合性はどうか。

(5) まち・ひと・しごと総合戦略はどうする予定か。

2、観光の発展について。

(1) 観光局のこれまでの成果は。

(2) 今後目標とする成果は。

(3) 2次交通網整備についての考えは。

(4) 滞在型観光地を目指す考えは。

(5) 観光人材の育成は。

(6) 宿泊税をどのように活用する計画か。

以上、再質問は質問席にて行います。

議長（白鳥金次君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長（平澤 岳君） おはようございます。

湯本晴彦議員のご質問にお答えします。

大きな質問1の町長の今後の町政ビジョンについて、(1)町長の公約どおり事が進んでいるのかにつきましては、私が掲げた公約は、開かれた町政、子育てしやすいまちづくり、稼げる農業、経済活性化、健康長寿日本一を目指す、自らセールスによる観光立町の復権、この6つの柱であります。現在それぞれの分野で着実に取組を進めており、町民の皆様の実感していただけるよう努力しております。

まず、①の開かれた町政についてですが、毎年町長と語る会を開催し、住民の皆様との対話を重ねております。学校統合においても一旦立ち止まって、議論の場と時間をしっかりと取っ

たことで9年制の義務教育学校への統合という方向性を見出すことができました。

また、SNSや広報紙などの発信を工夫し、透明性を高める努力を続けております。

この議会のインターネットライブ配信も行いたいと思っておりますが、私の専権ではございませんので、ここでは控えさせていただきます。

次に、②子育てしやすいまちづくりについてですが、一昨年の役場組織改革により、子供に関する業務を教育委員会に一本化しました。新設されたこども未来課が中心となり、保育環境の充実や学校教育の質の向上に取り組んでおります。教育費に関しては令和6年度まず半額としました。本年度は、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、保護者の負担は3割以下まで下がる見込みです。

また、保育園では3歳以上児の副食を無償化にしており、今後も保護者の協力をいただきつつ、子供たちに安全で温かい給食を届けてまいります。

さらに、スポーツクラブを立て直して、スケートボードやバドミントンなど人気の教室も新設しました。若い世代が安心して子育てできる環境づくり、今後は児童クラブと習い事の融合など、新しい取組も検討してまいります。

続いては、③の稼げる農業についてです。

公約としている稼げる農業について、これまで果樹やキノコを中心として、志賀高原ユネスコエコパークや志賀高原からの清流による恵まれた環境で育まれた農産物として、ヒストリーとストーリー性を持たせております。購入いただく方に付加価値のある農産物をお届けできるように取り組んできたところです。今後につきましても、まちづくり観光局とタイアップしたブランディングに取り組んでまいりたいと思っております。

10月にJ Aながの志賀高原ブロックとともに大阪の大果大阪青果、11月には災害協定を結んでいます熊谷市の物産展に訪問を計画しております。町長の私が直接伺い、町の果樹をPRするとともに、町の農作物の評価を直に確認することで、果実をはじめとする農作物に対してのお客様からのニーズを捉える機会として、その結果を今後のブランド農業推進につなげてまいりたいと考えております。

また、近年の気候変動による果樹被害への対応も兼ね、農家さんの支援にもつながる6次産業施設の設立を研究しております。

労働力不足の対応としては、4つの施策を進めております。

1つ目はマッチボックスの運営、2つ目はおてつたびとの連携協定を結びました。3つ目は技能実習生特定技能の受入れと組合の紹介などを行っております。4つ目は特定地域づくり協同組合の発足準備を行っております。今はそれらに加えて2地域居住促進と人材のマッチングのため、東京のとある企業と新しい連携を検討しております。

次に、④経済活性化についてです。

社会人口は微増ながらも増加に転じ、ふるさと納税額は令和4年度に比べて140%の増加となりました。私が就任後設立したまちづくり観光局と経済振興課が中心となり、地域資源を

生かした雇用創出と産業づくりを進めております。特に町の基幹産業であるスキー産業については、志賀高原マスタープランの策定支援や、町が主体となった補助金申請体制の整備を行ってきました。

続いて、⑤の健康長寿日本一についてですが、国民健康保険中央会が8月に公表した健康寿命で長野県が男性、女性ともに全国1位となりました。これは高齢者の高い就業率、野菜摂取量の多さ、健康ボランティアによる自主的な健康づくりの取組などが要因として上げられます。

当町でも保健指導員や食生活改善推進委員とともに、高血圧対策や糖尿病緊急対策に取り組んでおり、既に町内の飲食店さんと減塩メニューの展開なども進めております。また、長野県内の国民健康保険の1人当たりの医療費では、少ないほうから13位となっておりますので、今後もこの取組を続けてまいります。

また、一昨年から全国13の自治体で構成される健康・美・長寿推進協議会に加盟し、6月には「健康・美・長寿シンポジウム in 京丹後市」に出席してまいりました。今月末には大阪万博で山ノ内町の取組を発表する予定です。

公共交通では楽ちんバスに加え、デマンド交通チョイソコやまのうちを導入してまいりました。

スポーツクラブもスポーツ教室に子供から大人まで活用できる形に再編し、今後は部活動の受け皿としても機能させてまいります。

⑥観光立町の復権についてですが、就任直後にオーストラリアでトップセールスを行った際、志賀高原の認知度が低いことに大きな衝撃を受けました。その経験から、特に欧米、オーストラリア、東南アジア圏へのプロモーションは毎年継続する必要性を痛感しております。

一方で、受入態勢整備も大変重要だと感じております。就任後には、湯田中駅前の観光案内所を再整備し、駅中カフェやロマン美術館前にトイレ、待合所を建設してきました。観光地としてカスタマーエクスペリエンスの向上が重要だと考えており、来町された方の顧客満足度を高める必要があると思っております。

今後も温泉、自然、スキーを核に農業との融合も図り、観光立町の復活を進めてまいります。

(2)の町長給料30%カットをやめた理由については、就任当初は自らを律する姿勢を示すため、給料を3割カットいたしました。しかし、2年がたち課題が多様化し、首長としての責任の重さも踏まえた結果、適正な報酬に戻すことが妥当と判断いたしました。これは、町長個人のためではなく、町長職への責任に見合う形で町政を前進させるためであることをご理解いただきたいと思います。

(3)の孫たちが帰ってきたくなるまちづくりについて、①のこれまで何をしてきたかについては、私が最も大切にしているのは、次世代につなぐまちづくりです。町の経済活性化を最優先課題に捉え、スキー場の存続支援、湯田中駅周辺の再生、観光局設立などを進めてまいりました。

教育分野ではALTの増員や留学補助の創設、学校統合の方向性を確立しました。

国際交流では、今まであった中国密雲区、アメリカベイル町に加え、新たにフランスのサン＝ジェルヴェ・レ・バン市とも提携を結び、子供たちの交流を進めています。

②の今後何をしていくかにつきましては、孫たちが帰ってきたくなる町にするためには、経済的な活気が必要だと考えております。働く場を増やすだけではなく、ここで働いてみたい、働きたいと思ってもらえる魅力のある職と町をつくる必要があると感じております。

観光と農業を基盤に若い人が住みたい、帰ってきたい、挑戦したいと思える町を目指す。そのためには町の経済の活性化が最重要課題となっております。

既に湯田中区と共益会と町の3者で湯田中まちづくり委員会を立ち上げ、経済的な活性化を模索を始めておりますし、エステーと4者の連携で山ノ内町のかおりプロジェクトも進めております。町の入口として重要な湯田中駅周辺、道の駅、上林ロマン美術館前の3拠点の整備を進め、その上で基幹産業である観光と農業をしっかりとサポートしていきたいと思っております。

これまでの2年間は基盤づくりに注力してまいりました。これからは、その基盤を形にする期間と考えております。

次に、（4）総合計画と観光交流ビジョンの整合性をどう図っていくのかについてお答えします。

総合計画につきましては、まちづくりアンケートなどを通じて町民の皆様の要望、意見を把握し、さらには住民福祉、産業振興、環境保全など様々な観点から持続可能なまちづくりを実現することを目的として、5つの分野別に部会を設けて審議をいただいております。

観光交流ビジョンにつきましては、昨年度に町の現況調査を実施しており、今年度はその結果を踏まえて計画策定をする予定です。これから2つの計画を策定する上で重要となるのは地域のニーズであり、それぞれの計画策定には地域の皆様のご協力をいただいております。

観光交流ビジョン（第4次）につきましては、第3次策定時と同様に第6次総合計画の後期計画の方針、目標との整合性を図りつつ策定を行ってまいります。

（5）のまち・ひと・しごと創生総合戦略はどうする予定かにつきましては、現在、第2期山ノ内町まち・ひと・しごと創生総合戦略の第5回目の改定作業を進めており、次回の審議会において協議を行い、改定を行う予定です。

また、後期基本計画の策定に併せて、第3期山ノ内町まち・ひと・しごと創生総合戦略を令和8年3月までに策定予定ですが、後期計画に沿う形で具体的な事業をお示しする形となります。

大きな質問2の観光の発展について6点のご質問をいただいておりますが、旧総合開発公社、旧観光連盟、町商工観光課の一部の業務が統合して、令和6年度から現在の観光局として本格的に業務をスタートしたところです。昨年度は観光商工事業者や住民への説明や観光局内での準備が不足し、ご心配をおかけしたかと感じております。今年度は体制を整理し、5月には公募による事務局長を新たに迎え、観光局の運営を進めているところです。観光局が管理してい

る道の駅などの事業収益なども生かしながら、自ら稼げる組織体制づくりを目指したいと考えております。

詳細につきましては、経済振興課長から答弁させます。

以上です。

議長（白鳥金次君） 経済振興課長。

経済振興課長（田村清志君） おはようございます。

補足のご答弁を申し上げます。

2、観光の発展について、（1）観光局のこれまでの成果はとのご質問ですが、令和6年度から本格始動した観光局ですが、それまでの体制の異なる組織を統合した新しい組織であり、事務や会計などにおける新しい処理方法などについて、観光局職員への浸透に時間を要したこともあり、スムーズな船出とはなりませんでした。

しかしながら、この間、各種観光展への出展やトップセールスなどを行い、町の観光産業のPRを進めてきたほか、事務局内では勤退管理や会計管理、情報共有ツールなど事務のDX化を進め、事務処理の適正化に努めてまいりました。また、観光PRについても、デジタルマップの作成やデジタルサイネージの設置など、DX化を推進しています。

道の駅や楓の湯などの施設管理に関しては、施設の長寿命化を図りながら、コロナ禍以前の売上げを目標に、健全な経営に努めてまいりました。また、令和6年からオープンした湯田中駅前のインフォメーションセンターやエキナカ山ノ内のカフェ店舗では、オープン以来利用者、売上げともに右肩上がり増加しており、国内外の観光客の皆様をはじめ、地元の住民にも多くご利用いただいております。令和7年2月からは、スノーモンキーパークバス待合所での観光案内業務も開始し、トイレの整備と併せお客様の受入れ環境整備に取り組んでおります。

次に、（2）今後目標とする成果はとのご質問ですが、今年度に入りまして公募により事務局長が着任し、新しい事務局体制の下、観光局の運営を進めているところです。

足元の目標としましては、コロナ禍前、2018年ごろの観光入り込み状況の水準まで復活できるよう、誘客推進を図っていきたいと考えております。

また、今年7月下旬には、町の観光業者の皆様に対する観光局の事業説明会を実施し、観光局への理解を深めていただくとともに、今後の展望を説明させていただいております。

まちづくり部門を設置し、特定地域づくり事業協同組合や移住創業支援などの調整検討を行うほか、インバウンドやオーバーツーリズムの対応、また、今後は山ノ内町だけでなく長野市を起点とした信越エリアでの広域プロモーションを強化する必要があります。道の駅の収益なども生かしつつ、自走できる観光局を目指し、今後は賛助会員の加入促進を行いながら、皆様が抱える観光に関する課題に対し賛助会員の皆様とともに課題解決を行いながら、観光地域づくり法人の登録を目指していきたいと考えております。

次に、2次交通網整理についての考えはとのご質問ですが、湯田中駅を起点とする2次交通では、路線バス、タクシー、竜王のソラテラスを結ぶシャトルバス、また、観光局で実施して

いるレンタサイクルなどがあり、路線バスやタクシーにおいては地域住民の生活路線としても重要でありますので、未来創造課と足並みをそろえながら地域公共交通の維持を進めていきたいと考えております。また、レンタサイクルにつきましては、グリーンシーズンにおいて国内外の観光客の皆様にご利用いただいておりますので、一定の利用者数がありますので、利用者数の増加に向けた情報発信に取り組んでいきたいと考えています。

新幹線の長野駅、飯山駅を起点とした2次交通では、長野駅から上林を経由し志賀高原へアクセスする急行バスがあり、志賀高原やスノーモンキーパークへ直通でお越しいただける重要な路線ですので、去年度設置したスノーモンキーパークバス待合所での対応や、急行バスのPRなどを充実して利用促進をしていきたいと考えています。

飯山駅からはタクシーまたはレンタカーを利用されたお客様に対する助成制度として、楽ちんカーサービスを運用しており、利用促進について引き続き関係機関と協力しながら進めていくこととしております。また、北信濃Ma a S事業、旅する北信濃の取組も進めてまいりたいと考えています。

次に、（４）滞在型観光地を目指す考えはとのご質問ですが、現在、町内にお泊まりになる日本人旅行者の多くは1泊、外国人旅行者は1泊から2泊程度が主流であると考えております。当然宿泊数が伸びれば町に対する経済効果も大きいことから、滞在型観光地を目指していきたいと考えています。

滞在型観光地を目指すには、観光客が選択できる多くの着地型旅行商品や飲食店などが必要と考えており、そのために地域活性化起業人を中心に着地型旅行商品の造成を検討しているほか、飲食店の需要調査を進めているところです。

また、それと並行して、地域の自然や文化の魅力を伝えるインタープリターとしての人材育成、また飲食店の企業あっせんや空き家再生事業補助金の利用促進など、滞在型観光地を目指した環境整備が必要だと考えているところです。

これらは非常に大きな課題でありますので、関係機関と十分に調整しながら検討してまいりたいと考えています。

次に、（５）観光人材の育成はとのご質問ですが、町内のホテル、旅館の方からは、清掃スタッフや厨房スタッフなど多くの職種で従業員の確保が難しいとの声をお聞きしておりますし、また、町外からの採用が多くなり、町内の観光情報を習得いただくために大変な苦勞をされているとも伺っております。従業員が住む場所の確保も難しい状況だということも承知しておりますので、従業員を採用しやすい環境づくりとともに、山ノ内まちづくり観光局が中心となってホテル、旅館、従業員などに対する研修会やホテル、旅館間での従業員の交流会の実施など、観光人材のスキルアップ対策を検討していきたいと考えています。

次に、宿泊税をどのように活用するかとのご質問ですが、長野県の宿泊税は、令和8年6月から施行される予定で、長野県が想定している主な使途としては、1つ目に、世界水準の山岳高原観光地づくりのための施策の重点的な実施として、長野県らしい観光コンテンツの充実、

観光客の受入れ環境整備、観光振興体制の充実、2つ目に、市町村への交付金として一般交付金、重点交付金、そのほかに町税経費、広報経費等が上げられています。

現段階では、6月17日に開催された長野県宿泊税活用部会で宿泊税を活用した取組の方向性が示されましたが、制度の具体的かつ詳細な説明がなされておらず、令和8年2月ごろに予定されている宿泊税活用計画の決定までは、宿泊税を財源としたどのような事業展開ができるかは不透明な状況です。

町としましては、町の実施計画や観光交流ビジョンなどで計画している事業と照らしつつ、県の動向を注視しながら情報収集に努め、これら観光施策全般に対し宿泊税を財源として活用していきたいと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） それでは、再質問させていただきます。

まず、町長の今後の町政ビジョンについてのところで、公約についてですけれども、町長と語る会を2年やってきて、非常にいい取組だなと思っております。

今年は語る会の予定はどうなっていますか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 今年については、まだ日程等々決め切れておらず、これから秋口に開催する予定となっております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 開かれた町政をする目的というのは、関心を持ってもらうという効果もあると思いますし、身近に感じてもらう、これは議会も同じだとは思いますが、関心を持ってもらうというところがあると思いますので、その辺またぜひお願いしたいと思います。

ちなみに、先ほどそういった意味で議会のライブ配信も検討というか、町長としては考えているみたいでしたが、予算をつけるお考えとかはございますか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 適切な予算金額で予算が、リクエストが来れば、もちろん予算を充てたいと思いますが、前回ちょっと私の想定を丸1個多い数字で来たので、却下させていただきましたが、ライブ配信はもっと安価でできるはずだと思っていますので、適切な金額で上げていただければ前向きに検討してまいりたいと思っています。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 議会でも、開かれた議会というのは目指しているところでありますので、そこは我々も考えていきたいと思います。

続いて、子育てしやすいまちづくりですが、町長が学校統合を考えたときだったと思うんで

すけれども、東側を観光エリア、西側を文教エリアとして、まちづくりビジョンを考えていらっしやったかと思うんですが、それは今どのようにお考えでいらっしやいますでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 今でも湯田中駅を中心としたエリアは観光地として発展させていきたいと思っておりますし、文教エリアというのは、子供たちが学校に歩いて通ったりすることもあるので、できれば観光地、これからインバウンドがもっともっと増えることを考えますと、安全面も考えて、観光地から若干離したいという思いはありました。今までの学校統合の議論の中の経緯から一番適切な学校を選ぶということと、中身を、一番重要なのは中身ということで、その中で工夫しながらやっていくべきだと思っています。私のビジョンとしては分けたいなというのはありましたが、結果として必ずしもそうならない可能性もあるとは感じております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 先ほどの開かれた町政もそうなんですが、町民に関心を持ってもらうという意味ではビジョンというんですか、これからこうしていくんだというところが見えているほうが関心持てると思うんです。その意味では、やはり文教エリアというところは、これから子育てしやすいまちづくりという意味で、山ノ内中学校が今の敷地に行くということであれば、というかなるんですけれども、上条、夜間瀬、この辺の再開発等、その辺はお考えでいらっしやるんでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 新しく何か開発するということはあまり考えておりませんで、西小学校のしっかりとした活用というところを考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 続いて、子育てしやすいまちづくりで、先ほど給食費半額とか、3歳以上の副食費の無償化とかいうのを言っていたらっしやったと思うんですが、この辺は確認なんです、いつぐらいから始めていたことですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 給食費を半額にしたのは令和6年度です。保育園の3歳以上児の副食を無料化したのはその前だと認識をしております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 町長の公約というか、どこかで聞いたと思っているんですが、給食費を無償化しようという考えがあるというのをどこかで見た記憶があるんですが、その辺のお考えはいかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 小・中学校の給食費は無償化したいと思っておりますが、これは公約で言っているものの、やはり財政との協議の末、まずはステップを踏んで半額というところに進んで、この先また国のほうも無償化する話も出ていますので、その動向を見ながら現在検討をしているところであります。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） この辺も周辺自治体がどんどん無償化もしてきていますので、人口を増やしていくためには、そこら辺どうしてもついていかなければいけない部分もあるのかなと思います。ぜひ前向きに考えていただきたいなと思います。

次の稼げる農業ですが、こちらのほうは、農業自体はブランド力があるというか、品質がいいというのがそもそもあると思うんです。ふるさと納税の返礼品として農産物を増やすというような話が前あったかと思うんですが、その辺、今どのように進んでいるんでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 農作物のふるさと納税の返礼品を増やす努力を私も関係課もしておるんですけれども、JAさんとの協力体制、また個選農家さんとの協議をしておりますが、なかなか厳しい状況であります。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） JAながのさんと果樹のPRで、前セールスに行ったりしていらっしゃるということで、その辺を逆に言うと、JAさんにもふるさと納税のほうもっと増やしてくれというそういったお願いというか、そちらのセールスになると思うのですが、いかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） そちらのほうはもうこの2年間しっかりやっておりますが、結果、なかなか厳しいというところでございます。私のほうからは何度もリクエストはさせていただいたり増やす努力はしておりますが、相手のあることですので、我々が頼んだからといってすぐに扱い高を上げてくれるという話ではないという状況でございます。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） それが増えない一番の向こう側の理由というのは何なんでしょうか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

先ほど町長申し上げたとおり、何度かJAさんとも協議を重ねてまいりましたが、既に先ほど議員がおっしゃられたようなブランド化が確立しているというような形で、もう行先がほぼ決まっているという中で、無理にふるさと納税で稼ぐ必要はないというようなところもござい

ますので、町としては、現在個選のほうを中心に進めているという状況でございます。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 個選のほうもぜひまた進めていただきたいと思いますと思うんですが、ちなみに個選のほうはどんな進捗状況ですか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

こちらのほうも既に行先が決まっているものもある中で、無理やり町のほうにという形ではなくて、こちらにも販路の一つとして選択いただける場合において町のふるさと納税に加入していただいているという状況でございます。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 結局もう既に売り先ができてしまっているということで、どこも出したいくないよとなると、もっといい条件を出すしかなくなってしまうと思うんです。その辺をまた検討していただいて、相乗効果が上がるような形を検討していただければなと思っております。

次の経済活性化ですが、これはちょっと後半でまた併せてお聞きしたいと思います。

健康長寿日本一ですが、ちなみに日本一になるにはどのぐらいの数値目標というか、今、長野県は全国1位というのは分かりましたが、例えば県内で山ノ内町というのは今どの辺にいるとか、そういうランキングとか、実際に健康寿命、それが何歳とか、そういう数値目標みたいなのは分かるのでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） ちょっと今、数字、健康福祉課長に調べていただいているので、数字的なお答えはまた健康福祉課長からします。目標として、私のトップセールスに掲げた健康長寿日本一を目指すというのは、これ過去の国会でもあったような日本一を目指すべきなのか、目指さなくてもいいみたいなことありましたけれども、日本一を目指すというぐらいの意気込みで、しっかりと健康に対して町がいろいろな施策を行うということが大事だというふうに思っていて、必ずしもそこで順位とかで一喜一憂しようとは私のほうは思っていないで、しっかりと日本一を目指すぐらいの施策をちゃんと打っていきたいという意気込みですので、これを文字どおり受けて日本一を目指さない、日本一になっていないじゃないと言われるのは若干公約の履き違えというか、私も日本一は目指しますとお話はさせていただいておりますが、日本一を目指すための努力でいろいろな施策をすることが大事だと思っていて、その結果、長野県はもともと全体的に日本でも一番になっていますし、我々の健康福祉課の努力によって医療費のかなり削減というか、医療費がかかっていない町にもなっていますので、その辺は山ノ内町、もともと取組が進んでいると思いますし、先ほどお話ししたような減塩メニューを町内の食堂とかとも開発したりとかということで、町健康福祉課が頑張っているところが結果と

して出ていると思いますし、100歳以上の方が21人だったかな、いらっしやって、それは人口比率で割ると、全国平均よりもはるかに上回っているという数字ですので、町の100歳の方の数としても多いほうだというような認識を受けております。

詳細の数字出ました。出ない。

数字はまた後日お渡しするということによろしいでしょうか。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） まち・ひと・しごと創生総合戦略によると、健康寿命の延伸というところがありまして、そこで健康寿命が令和3年が男性80.2歳、女性84.2歳、令和6年が男性79歳、女性が83.9歳と。逆にこれで見ると下がっている数字になるんですが、その辺はどのようにお考えですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） すみません、私もあまりその数字を常に追いかけているわけではないので、ごめんなさい、それに対しての適切なコメントはちょっとできないんですけども、先ほどもお話ししたように、かなり医療費ともうちの町は下がっているというところで、様々な施策が功を奏しているというふうな認識はしております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 日本一目指すという意気込みはすばらしいと思いますので、具体的にまたそういったところをこれから進めていっていただきたいと思います。細かいところはまた後でもちょっと触れますので、あと、トップセールスの観光立町の復権ですけども、いろいろと海外も行っていらっしゃると思うんですが、中身をどう組み立てているのか、その辺の実際にそちらに行って何を売っているというか、そこら辺の戦略性というか、売り文句というんですか、そこをお聞きしたいです。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） トップセールス、この1年間で幾つか行っておりますが、直近でいうと5月のオーストラリアのシドニーで行われたスノートラベルエキスポに関しましては、ターゲットがスキーが好きなオーストラリア人ということで、志賀高原の事業者さんも渋温泉の事業者さんも一緒に行って、観光局と一緒にブースでのPRを行いました。

主には、まず雪山のスキー場のPRではあるんですけども、長野県全体として今グリーンシーズンのPRも同じエリアでしていくということで方向性を合わせておりますので、グリーンシーズンのPRも併せて行ってきております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） グリーンシーズンもぜひ売っていただきたいと思っております。なぜなら、それがオフシーズン対策になるからです。

特に地獄谷とかはホワイトモンキーとかベイビーモンキーと言われている子供のサルです、そこが春のオフシーズンになると多く出ると。生まれてくるといふことでもありますので、その辺を通年的に営業できるような、そんなセールスをしていただきたいと思います。

次に、町長給料カットの件ですが、これはもう自らがもらう権利のある給料を自主的にカットしたことなので、もうこれだけで2年間十分に評価できるんですが、公約に掲げている関係上、町民が納得できる説明が十分されているのでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 前回の議会でも議論させていただきましたが、その説明が不足しているとお感じになられるのであれば、私の不徳のいたすところではありますが、先ほど話させていただいたように、2年間給料をカットしてきまして、また責任の重さを踏まえた結果、適正に戻させていただきたいということで前回の議会でも提案させていただいて、議会の承認を得て戻させていただいたという経緯になりますので、ご理解いただければと思っております。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 今後は町長と語る会を計画されているということですので、そこでも説明されていくのがいいのではないかと思います。

次の孫たちが帰ってきたくなる、つまり若者が帰りたと思える魅力づくりだと思うんですが、具体的に若者たちがわくわくするような目標や具体的なイメージ、このところが重要かと思うのですが、その辺はどのようにお考えでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） この若者たちが帰って来たくなるまちづくりというのは、非常に幅広い施策が必要になっていると思っています。本当に私が一番考えるのは、わくわくするところと、別にイベントがあつたりお祭りがあつたりということではなくて、しっかりとこの町で生活が営めるか、この町で自分の家族を育てていきたいと思える町かどうかということが重要だと思っていますので、まずは経済活性化が第一だということで経済振興のほうを進めております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） その意味で次の総合計画や観光交流ビジョン、総合戦略、この辺につながっていくんですが、まず、第6次総合計画前期計画基本計画でKPI、Key Performance Indicatorという重要業績評価指標と呼ばれる目標値なんです。それが全部で81個あるんです。これを管理するだけでも相当職員の時間や労力が取られると思うんですが、これは多過ぎないでしょうか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

こちらについては、5年前、前期基本計画を立てる際に議会の皆さん、また町民の皆様と一

緒に考えたものでございます。そちらの多過ぎる、多過ぎないの内容に関しましては、私の答えは控えさせていただきます。ただし、今回後期基本計画を立てる上で、そういった皆様の声も当然お聞きしておりますので、スリム化というわけではありませんが、アウトカムに特化した内容で、より分かりやすく、数量で表せる内容をつくりましょうということで庁内、また審議会でもお話をしているところでございます。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 81個管理していくだけでも相当時間がかかると思いますし、また、その指標が多過ぎると、今度、結局それを意識して政策をしないで、指標を意識しないというか、運転していてスピードメーター見ていないで運転するような感じになってしまうと思うんです。ありすぎて、いろいろなメーターがいっぱいあったら、もう分からなくなってしまうと思うんです。

なので、シンプルにすべきだというのは思います。その意味で、もうここまで進んできているからなかなか言いにくいところではあるんですが、総合計画自体ももう少しシンプルにすべきではないかなと。

私は、町長の公約をベースにつくるのがいいんじゃないかと思うんです。なぜなら、そこにトップの思いが入るからです。その辺どのようにお考えでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） この総合計画というのは、おっしゃるとおり、かなり作業量も膨大で、とはいえつくらなければ、いろいろなところで計画なしのまま進むというのも問題かと思っておりますので、私的には、もちろん議員のおっしゃるとおり、スリム化は必要だとは思っておりますが、計画自体の必要性は感じております。

ただ、そこに町長が替わったからといって、それをまた大きな方向転換を全部にしていくとなると、それはそれでまた職員の負担も多いわけで、基本最低限、もちろん修正の必要なところは変えてもらうことになるかと思いますが、町長が替わったからといって、それを全部書き換えるみたいなことは、逆にやらないほうが町の行政としてはよいんじゃないかというふうに思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 町民は町長に変化を期待したんじゃないかと思うんですよ。なので、この総合計画自体は法的義務がないんです。計画という名前ついていますが、実際の計画は実施計画だと思うんです。なので、総合計画というよりも総合方針みたいなものでいいと思うんです。なので、私は町長が替わったら、町長の考えに進める意味で変化があっていいと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 方針としては、もちろん私のほうで逐一管理職会議でも出させていただいておりますし、方向性は出すと。ただ、町の業務としましては、かなり膨大なことが同時進行で進んでおりまして、全ての課で様々な業務がある中で、その全てを私が全部、てこ入れして変えていくというのは、正直言って変えなくてもいいこともたくさんありますので、町長が替わったからといって全てを変える必要というのははっきり言ってないと思います。変えるべきところ、例えばですけれども、経済活性化のために様々な施策を打つとか、役場の皆さんも町民の皆さんが手続スムーズにできるように、役場の組織改編をすとか、そういうことはしっかりと行ってきて変化を出しておりますが、今まで地道に計画の中でやってきていることに対して、それを全部ちゃぶ台ひっくり返してもう1回やらせるようなことはする必要性は、正直ないと思っておりますので、必要なところはしっかりと変え、ちゃんと町として継続して、しっかりとヒストリーをつくっていかなければいけない。町として運営しなければいけないところは、しっかりと継続して回していくということは必要だと思っておりますので、私が全部ひっくり返せばいいというようなことではないと感じております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 全てひっくり返せと言っているつもりはないんです。実際に町長も変えるべきところは変え、変えないべきところは変えないでやっていると思うんです。なので、そうすると、今の町長のやっていることも、じゃ、過去の計画に沿っているかということ、今の町長の考えで進んでいるんだと思うんです。なので、この計画を前のを踏襲しながらやっていくというよりも、もう方針だと思うので、町長の考えで私はいいと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 私のそういう計画というのは、何年か計画で進めている数字だったりしますので、それは私が全部変えていくと。私の方向へ全部変わるという話でもないというのは先ほどもお話したとおりで、でも、続けるべきことは続けるということだと思っておりますので、そこは私としても全てを変えるわけでもなく、しっかりと継続と変化を一緒に行っていくということと、あと、計画自体も先ほどもお話ししたようにスリム化が必要だと思っております。職員の作業自体も見直して、様々な業務で10%ぐらいは作業量を減らすようにみんなで考えていこうという話もしておりますので、今後この計画をどこまで作り込みをしていくべきかということは議論が必要だとは思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） そうすると、次のまち・ひと・しごと総合戦略、これは今年度年明けになるのか、今年後半からになるのかもしれないですが、こちらはまだこれからなので、ここもKPIが全部で45個あるんです。その中で例えばですが、例えば定住自立圏構想の推進というと

ころでいくと、北信地域定住自立圏構想を推進するために、K P Iとして新幹線の飯山駅の1日平均乗客数というのを出しているわけです。これってそんなに重要なんでしょうか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

当然議員もご存じのとおり、総合戦略基本計画につきましては、観光、産業、様々なもの、住民福祉も含めて様々な観点から進捗を管理する必要があるということで、前回のところで計上したものと考えております。

こちらのほう、まずは広い目線で管理するということで、我々未来創造課で全て進捗管理するというわけではなく、全庁で管理しているものでございますので、現状多くは見えますが、当時はそれが適正であったと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 変更できるものであれば変更して、どんどんスリム化していいかなと思います。

ほかにもあるんですが、ちょっと時間もなくなってきたので、リクルート社ので11年間K P Iについて研究された方がいらっしゃって、「最高の結果を出すK P Iマネジメント」という本をちょっと読んでみると、K P Iのよくないケースとして、一つは、たくさん数値を出しているというケース、これだとキーパフォーマンスインディケーターということで、キー、つまり鍵になる重要指標というか、鍵にならないというか、たくさんあると、ただの数値管理だということになります。

2つ目は、コントロールできない指標をK P Iとして設定している場合、先ほどの飯山駅の乗客数は、町でそこまでコントロールできないんじゃないかなと思うんです。そういった意味で、数字の達成で意味のあることは大目標、今回この場合、人口だと思うんですが、大目標と関連性が高いもの、その数字に対してアクションプランの効果がどの程度あったかを管理してほしいかなと思うんです。これがやったからうまくいったのか、やらなくてもうまくいくのか、また、逆に、やっとうまくいかなかったのか、やらなくてもうまくいかなかったのか、この辺を考察していかないと、意味のある効果測定にならないで、ただの資料づくりになってしまう気がします。その辺5年間の計画でやると決まっているからというだけでは、これだけ変化の多い時代に対応できないかなと思うんですが、その辺のご感想をお聞きしたいです。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 議員のおっしゃるとおり、K P Iの使い方というのは、確かに飯山駅の数字がいまだに載っていることは私もクエスチョンマークでありますので、そこは今後検討すべきだと思いますし、我々が努力してどうにもならないことをK P Iの指標として載せていくのはあまりよろしくないと思います。

同じほかのページにありますように、例えばF a c e b o o kの登録者数、目標数値として

定めていますが、これも私からしてみたら正直、どうなのとは思っております。逆にこういう大きな組織だからこそ、160人以上いる組織だからこそ、ある程度こういう数字があったほうがその数字に向けて、新しい職員、入ってきた職員とかも、あ、じゃ、そこを目標に頑張るんだというところで、目標数値として上げているという認識もありますので、全てを見直すべきではないと思いますが、議員のおっしゃるとおり、我々が努力したところでどうにもならない指標というのはあまり載せても意味がないなとは私も感じますので、引き続きこれは見直ししながら、審議会もありますので、議論しながら進めていきたいと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） ぜひその辺精査していただきたいです。

要は、吸えない掃除機で何回掃除したというのではなく、ごみをどのくらい吸えたかというところを測定してほしいということです。

その意味で、また次の観光の発展についてのほうへいきたいと思うんですが、観光局、これまで新しい局として平澤町長になってから出来上がったわけでありすけれども、役割として、これも本からになるんですが、「観光地経営で目指す地方創生」という平澤町長もお読みになられていると思うんですが、観光局は司令塔になるべきだということが書かれておりました。その辺のご意見、どのように思っていますでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 観光局の今、目指しているところというのは、様々な役割がありまして、おっしゃるとおりDMOになって司令塔という役割も必要だと思いますし、町の観光の方向性を出したりですとか、皆、町の観光事業者さんたちを牽引していくという立場でもありますが、私が今回観光局を立ち上げる際に、一つ要素として足させていただいたのは、まちづくりという部分で、名称にも「まちづくり観光局」とあえて入れさせていただきました。

これは、野沢温泉とか、ほかの観光協会とかとは違う役割を持たせたいという意味で持たせましたが、我々の町のまちづくり観光局は、まちづくりも観光と一緒にいうんだというところで、観光とまちづくりは非常に表裏一体ですので、しっかりと観光活性化をしながらまちづくりも行っていくというところでいくと、農業とも密接な関わりを持っていくということと、もう一つは、自走できる体制ということで、極力自ら稼げるような観光局を目指すというところで新体制として今スタートしたばかりでございますので、何でもかんでもリーダーシップを取って、みんなを引っ張っていくんだというだけではなく、町と一緒に育てていきたいと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 私もそのためにビジョンというのは必要だと思うんです。私が考えるビジョンなんですが、3点ありまして、1つは全町型、そしてもう一つは連泊型、そしてもう一

つが通年型、全町型、連泊型、通年型と。

全町型というのは、志賀湯田中、渋、北志賀3つに分けるのではなくて、全体的にセールスをしていく、またコンセプトをつくっていく。町長がよく言うスノーモンキーに來たのに志賀高原を知らないで白馬に行ってしまうとか、そういう人がいるというのは、それだけ町全体を活用して宣伝してこなかったからかもしれないです。これは竹節前町長時代の政策なので仕方がないと思いますが、平澤町長は全町的なことを考えていると思いますので、その辺を打ち出していく必要があるのではないかと。その意味で、町をつないでいく交通網アクセスは大事だと思います。そうすることで回遊性が高まり、滞在時間も長くなるということです。

連泊型というのは、これからの観光業の在り方として、インバウンドをベースにした営業スタイルが多くなるからだと思っておりまして、連泊需要に強くなれないといけないと。

そして、3つ目の通年型というのは、年間通して稼げる山ノ内町にしていこうということで、正規雇用が増え、定住者が増えることにもつながるということだと思います。

そのように持っていくことが町としての戦略かなと思っていて、その意味で次からの3点の質問、2次交通と滞在型観光人材になるんですが、まず、2次交通についてですが、輸送力を増やさなければいけないと思っています。そのために各旅館の送迎バスや緑ナンバーを持っている施設、タクシー会社などと協力して、定期便を出すと費用がかかるので、オンデマンドの実証実験とかで観光タクシー的な動きができないかと思うのですが、その辺はどのようにお考えですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） そういう様々な新しい取組というのは、もちろん必要だと感じております。と言いますのも、やはり湯田中駅前のインフォメーションセンターにおきましても、かなりバスの時間待ってうろうろしている観光客もおりますので、そののしつかりとしたサポートですとか、その時間に町のほかの部分も回っていただけるようなチャンスというのももちろんあると思いますが、なかなか町として全てをできるわけではないので、今後検討材料としては、新しい2次交通の仕組みというものをしっかりと考えるべきだということは課題としては持っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 昨シーズン志賀高原でライドシェアやったと思うんですが、その成果とかというのは何かご存じでいらっしゃいますか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 昨シーズン志賀高原でライドシェアを行ったのは、国交省の調査が第1の目的ということで、バスの乗降者数ですとかバスの使用頻度、シャトルバスのです、志賀高原管内でのバスの動き、ニーズ、人数、稼働、タイミング、天候に左右されるかどうかなどのデータ取りというのがメインだというふうに聞いております。その中で補完的なものとしてライ

ドシェア、ウーバーを採用したということで聞いておりますが、その辺の詳細のデータはまだ私のほうでは受け取っておりませんので、ここでは申し上げられません。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） これからの時代、そういったライドシェアとか、あとはMa a Sです、先ほどMa a Sもおっしゃっていましたが、スマホでも予約ができたり、決済までできたりとか、チケット買えるとか、もうこういった時代だと思いますので、その辺もその調査を基にしながら、町の回遊性をよくしていただきたいと思うんです。

白馬、大町、茅野、安曇野、この辺はもう既にオンデマンドで乗合タクシーというのは始めているので、その辺なんかも参考にさせていただけたらと思います。

続いて、滞在型の観光地に関してです。地中海クラブというクラブメッドという世界のリゾートホテルがあるんですが、ここはアクティビティが全て料金に含まれていて、オールインクルーシブと言われているんですが、ここの滞在期間が平均3泊と言われているんです。というのは、アクティビティやイベントのオプションが何十個とあって飽きないということなんです。現地に来て何を楽しむかという選択肢が多いというのは、旅行者にとっての魅力になると思うんです。そのために観光局が主体となってツアーやワークショップを充実させるということは重要なことだと思いますし、また、事務局長にしる、起業人の方にしる、旅行会社出身ということなので、この辺着地型旅行商品というのを考えているということなんですが、どのぐらい、例えば年度内にどのぐらいをやろうとか、そんな構想というのは何かご存じでいらっしゃいますか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） クラブメッドと町を比較されてしまうとどうにもならないんですが、クラブメッドはちょっと別格というところもありますし、資本金もありますし、もう何十年も前から同じスタイルで営業されているということで知名度もございます。

その中で、町として観光局として着地型商品の造成なども検討はしておりますが、そこが主力ではないと思っております。あくまでも観光というのは、各事業者さんがいらっしゃって、ホテル、スキー場、旅館もありますし、いろいろな様々な観光事業者さんたちの組合せでこの観光地というのは成っておりますので、その中で観光局として必要であれば商品造成は行いますが、それが全て解決するという話ではありませんので、しっかりと我々は受入態勢整備も含めて、いらっしゃった観光客の皆さんが、先ほど議員もおっしゃった2次交通のことも含めてしっかりと回遊しやすくする、いろいろ見て回ってもらうということも必要ですし、あと、民間的に新しいお店ができたりとか、飲食店が増えたり、お店が増えたりみたいなことも、町としては一生懸命後押しをしていくということが必要だと思っておりますので、その辺は全体的にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） 私が言いたいのは、少しでもオプションが増えて滞在期間が長くなるようなそういうふうに持っていくということが重要じゃないかというところなんです。なので、当然その観光事業者とかがいろいろやっていたり、新しい施設つくったりしたものもみんなシェアするというか、お客様がこれもあるって、こういうのもあるんだというような形で見せていかれるように進めていくことが大事かなと思うんです。

町は信越自然郷という飯山市が中心となってやっているDMO、そちらにももう参画していると思いますので、そこだと、内山和紙でつくるランタンづくりとか寺町で座禅体験とかそういうのもあるので、要はそういうのに乗っかっちゃうというんですか、こっちで自分たちで全部つくるのではなく、観光事業者も含めて、そういうのも広く全体的に分かりやすくしてあげる、または、それがスマホでできるようになれば、さらにいいんじゃないかなというのが私の考えです。

その辺に関していかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） とてもそういう取組は必要だと感じております。ただ、私、いつもこの町で思うのが、この町って非常にたくさんいろいろなものが既にあります。竹細工をされているところもありますし、もっと言えばスノーモンキー自体が町の中にあって、白馬とか妙高とかはもうパンフレットにスノーモンキーツアーをいっぱい大々的に載せているわけです。それがだから長期滞在の中の1日のプログラムとして提案をしているわけです。

ただ、残念ながら町内のスキー場の事業者さんたちが、スノーモンキーをツアーの一つとして組み込んだりというのはあまり見たことがなくて、どうしても町内にある素材、コンテンツいっぱいあるんですけれども、それらを皆さん相互利用されないというところはすごく感じていますので、それを観光局としてもしっかりと促進していくように促していくということはできますし、あまり新たに何かをつくるという、今スノーモービル乗ったり、スノーバイク乗ったりするアクティビティも出てきてはいますので、そういうものもちゃんと紹介したりはしますけれども、それを最終的にホテルが宿泊客の方に案内したり、ツアーを組んだりみたいな事業者が出てくるかどうかというのは、なかなか町が全てをやるというわけにいかないの、そこは民間的に頑張ってもらいたいなというところもあります。それを町としては後押ししていきたいというふうに考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） それに乗るか乗らないかは、結局事業者の判断になると思うんです。ただ、それをやりやすくするところまではできると思うので、アクセスの問題も含めてぜひお願いしたいと思います。

ちょっと時間がなくなってきたので、観光人材の関係、今おてつたびとか、これは2か月以

内のスポットワークだったり、マッチボックスというスキマバイトも町でやってくれているんですが、これはこれで非常に助かっている部分あると思うんですが、季節雇用対策でしかないので、正規雇用対策と同時並行で考えていく必要があると思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 通年型に雇用することがもちろん一番望ましいところではあるんですが、現状様々な旅館さんとかホテルが、通年でなかなか雇用し切れない、オフシーズンのその従業員の給料をなかなか捻出できないという現実的な問題もありますので、理想としては通年型でしっかりと雇用して、ここに定住していただけるような人材を増やしていきたいというふうに思っておりますが、まずは、冬の非常に忙しくなるときに人が足りないという課題を解決するために、おてつたびですとかマッチボックスをしっかりと展開していくと。

今後通年型で人材が必要というところは、技能実習生なども活用できますし、特定地域づくり協同組合を立ち上げて、しっかりと観光局のほうで人材を派遣できるような体制ですとか、農業の忙しいときには農業へ、旅館業の忙しいときには旅館業へみたいなことも最終的にはしたいなと思っておりますが、最終的には、議員のおっしゃる通年型雇用というものがしっかりとともっと増えていけば理想かというふうに思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） ぜひ、理想に向けて本当に定住者が増えることが一番いいので、それにはやはり正規雇用を増やすというのが大事だと思います。そういう意味で、戦略的に多文化共生を盛り込む必要がこれから出てくるのではないかなと思うんです。

山ノ内町は生物多様性を重んじている町なので、多様な人たちを受け入れるという、そういう優しい町になるというのは、コンセプトとして非常にいいと思うんです。観光交流ビジョンにしても、エコパークだからエコツアーではなく、環境意識を通じて思いやりを広めるんだとするほうがよほど崇高なビジョンですし、リゾートの在り方や町の在り方としても求められる姿なんだろうと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） すばらしい意見で、私も同感します。

以上です。

議長（白鳥金次君） 湯本晴彦議員。

10番（湯本晴彦君） ぜひ、町長の指針の中に入れていただきたいと思います。

ちょっと時間が、最後に1点だけ。

宿泊税のことですが、宿泊者だけでなく日帰りにも課税すべきという意見がありました。幅広く徴収できると、そのほうが財源確保できるという意味ですが、その辺の町の見解を聞かせていただいて一般質問を終わらせていただきます。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） この宿泊税に関しましては、長野県が主となり行うものですので、町としてできるできない、やりたいやりたくないという話ではないんですが、基本的に今までの議論を通じて言えるのは、これもいろいろな議論の結果、宿泊税という形に、観光税を宿泊税という形で落ち着いているということは、なかなか日帰り客からの徴収がしにくいという現実がありますので、その中を見据えて長野県としても宿泊税に落ち着いたというふうに理解いただければと思います。議員のおっしゃることは分からなくはないんですが、実際じゃどうやって徴収するのかとかいうことを考えると、基本的には難しいというふうに考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 10番、湯本晴彦議員の質問を終わります。

ここで議場整理のため、11時20分まで休憩します。

（休 憩）

（午前11時14分）

（再 開）

（午前11時21分）

議長（白鳥金次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（白鳥金次君） 2番 畔上恵子議員の質問を認めます。

2番 畔上恵子議員、登壇。

（2番 畔上恵子君登壇）

2番（畔上恵子君） 2番公明党の畔上恵子でございます。

町長はじめ関係所管の皆様には、日頃より町政の運営にご尽力いただき、ありがとうございます。感謝申し上げます。

さて、先月8月15日、80回目の終戦記念日を迎えました。犠牲となられた内外の全ての方々へ謹んで哀悼の意を表し、今なお傷跡に苦しむ皆様に心からのお見舞いを申し上げます。国民の多くが直接の経験としての戦争を知らず、記憶としての戦争を受け継ぐ時代を生きています。21世紀を生きる私たちは、このあまりにも残酷な歴史を風化させてはいけないと思っております。と同時に、核兵器なき世界を築いていく責任もあるのではないのでしょうか。

あらゆる次元でグローバル化が進む現代、今ほど人と人との血の通った対話が望まれている時代はないと感じております。一日も早く全ての方々が安全で安心できる日常が来ることを切に願うばかりであります。

それでは、通告に従い、一般質問をさせていただきます。

1、人口減少に歯止めをかけるための取組について。

（1）移住・定住促進策の強化は。

①空き家改修等の補助拡充の考えは。（耐震・断熱・水回り改修など）

②移住体験住宅の整備は。

③移住フェアや学生向けインターンシップの推進は。

(2) 子育て・教育環境の向上について。

①学童保育の人材不足に向けた取組は。

②保育料・給食費助成の拡充を検討する考えは。

(3) 観光や農業など産業の活性化推進への具体的な事例は。

(4) 地域雇用が永住につながる施策は。

2、空き家発生抑制対策について。

(1) 直近の空き家の現状は。

①空き家件数及びここ数年の推移はどうか。

②発生原因としてどのような傾向を把握しているのか。

③当町が行っている事業や制度は空き家管理や利活用にどのように生かされているか。

(2) 空き家が増加する可能性にどう対応するか。

①空き家利活用補助制度など県との連携はどのように進めているか。

②町独自で空き家発生を未然に防ぐための制度創設や支援を検討しているか。

以上、再質問は質問席にて行わせていただきます。

議長（白鳥金次君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長（平澤 岳君） 畔上恵子議員の質問にお答えします。

まず、大きな質問1の人口減少に歯止めをかけるための取組について、(1)移住・定住促進策の強化はに関してですけれども、町といたしましては、現在山ノ内町総合計画の後期基本計画の策定に入っており、人口減少のスピードの鈍化、人口減少に対応した地域づくりの2面から持続可能なまちづくりの計画を検討しているところです。

まず、(1)移住・定住促進策の強化はの①空き家改修等の補助拡充の考えはとのご質問ですが、平成26年度から実施している空き家活用改修等補助金は、水回りの改修等を含む居住するために必要な改修を補助対象としております。補助金額も補助対象事業の2分の1以内、上限80万円としており、現時点において拡充する予定はございません。

②移住体験住宅の整備はとのご質問ですが、現在運営している田舎暮らし体験住宅ですがかわんちの昨年の稼働率は16.7%であり、新たな移住体験住宅の整備は急を要するものではないと考えております。今の施設をオーダーメイドツアーなどと組み合わせながら、実際に移住につながる可能性を高めるために活用したいと考えております。

③移住フェアや学生向けインターンシップの推進はとのご質問ですが、これまでも都内で開催されている移住フェアやイベントに参加しており、今後も継続して取り組んでまいります。なお、移住施策として行う学生向けインターンシップは、今のところ検討してはおりません。

次に、(2)の子育て・教育環境向上についての①学童保育の人材不足に向けた取組はと

ご質問ですが、現在、放課後児童クラブは東小学校に2クラス、南小学校に1クラス、西小学校に2クラス、すがかわふれあいセンターに1クラスを開設しており、各クラス複数名の児童支援員で対応しております。

人材不足に向けた取組として、支援員の欠員が生じた際に、町の広報の伝言板やSUGUメール、公式LINEにて募集を行い随時採用させていただいておりますが、応募がなく欠員が生じる場合には、代替支援員やシルバー人材センターからの派遣により対応しております。代替支援員が確保できない場合や急な欠員に対しては、課に配置されている会計年度職員の保育士等が対応しております。

1日の勤務時間が短いなど、雇用形態の問題から人材確保は困難ですが、引き続き各媒体などでの周知に努め、支援員確保に努めてまいります。

次に、②保育料・給食費助成の拡充を検討する考えはとのご質問ですが、現在当町の保育料につきましては、平成27年度から同一世帯に入所児童を含む高校3年生以下の子供が3人以上いる多子世帯には軽減をしております。平成28年度からは、多子世帯やひとり親等の世帯への軽減拡充を行い、平成29年度からは、年長児の保育料を無料としておりました。さらに、令和元年10月より国による幼児教育・保育無償化が始まり、現在は3歳以上児の保育料は無料となっております。また、令和6年9月から長野県の補助事業が始まり、未満児についても町民税所得割額の要件はありますが、兄弟姉妹の年齢によらず保育料を軽減しております。

保育園の給食費につきましては、3歳未満児は国の基準に基づき、各保育園において調理した主食及び副食を提供しており、その費用については保育料に含めて徴収しております。3歳以上児につきましては、令和元年10月から国による幼児教育・保育無償化では副食費は補助対象外となっておりますので、保護者の負担とされていましたが、町独自の事業として副食費も無償としております。

今後も子育て世帯の経済的負担の軽減も含め、子供や子育てに優しいまちづくりを目指すため、他の子供に関する事業とのバランスを見ながら、子供や子育てに関するサービスの拡充に向けて検討してまいります。

(3)の観光や農業など産業の活性化推進への具体的な事例はとのご質問ですが、農業の状況について、町でも高齢化が進み、後継者や担い手不足を課題として認識しております。その中で山ノ内町の年間の新規就農者数の推移についてばらつきがあるものの、令和5年度は19名、令和6年度は16名と近年は顕著な数字となっております。これら新規就農者の定着に向けて、県JAや農業委員会とサポートの充実を図ってまいります。

町でも農業に興味、意欲のある方を対象に、毎年都市圏において開催される就農相談会に農業委員と生産者とともに参加し、新規就農者確保に向けて取り組んでいるところです。

なお、ご質問の詳細について、1の(1)の③移住フェア等の状況については未来創造課長に、(3)産業の活性化推進に係る農業の取組については農林振興課長に、(3)の観光の取組、(4)の地域雇用の関係については、経済振興課長から後ほどご答弁を申し上げます。

大きな質問 2 の空き家発生抑制対策について、5 点の質問をいただきました。

(1) 直近の空き家の現状は、①空き家件数及びここ数年の推移はどうかについてですが、平成28年度の実態調査では330軒でしたが、令和2年度の職員による再確認調査を行った結果、空き家等でないと判断したものや既に解体されたものを除き232軒と把握しております。以降、各区等にご協力いただき把握に努めておりますが、現時点では調査箇所以外にも町で把握できていない空き家も存在していると想定されますので、今後実態調査を行い、正確な実態把握に努めてまいりたいと考えております。

次に、②発生原因としてどのような傾向を把握しているかのご質問ですが、少子高齢化の進展による人口減少は、団塊の世代が後期高齢期から非相続期を迎え、より多くの空き家の増加が見込まれます。人口の減少が進む中で空き家の数を減らすといった取組は難しいため、増加が見込まれる空き家をいかにして所有者等において適正に管理していただくかといった取組を進めてまいりたいと考えております。

次に、③当町が行っている事業や制度は空き家管理や利活用にどのように生かされているかのご質問ですが、当町では適切な管理等を周知することや住まいの終活を呼びかけるなどの意識啓発、町内の空き家、空き地に関する情報の登録及び町への定住等を目的とした空き家・空き地バンク、老朽化が進んだ空き家を所有者自らが除却することを促す補助金の支援などを行っており、空き家等対策計画においても管理不全な空き家等の予防の推進、空き家等の有効活用の推進、さらには老朽化した空き家等への対応を基本方針として対策を推進しています。

各種補助制度や有効活用を通じて、周囲に悪影響を及ぼす空き家等の発生を抑制することに加え、移住・定住の促進などによる地域の活性化が図られると思われれます。

(2) 空き家が増加する可能性にどう対応するか、①空き家利活用補助制度など県との連携はどのように進めているのかのご質問ですが、長野県と市町村関係団体で構成する空き家対策北信地域連絡会に参加し、空き家の適正管理及び利活用に向けた取組を行っているほか、町が支援する空き家に係る補助制度や町が行う空き家対策事業には、長野県を通じて国の補助金を活用しています。

次に、②町独自で空き家発生を未然に防ぐための制度創設や支援を検討しているかのご質問ですが、空き家は個人の財産であり、原則的には所有者さんによる対策をしていただくものです。放置されている期間が長くなればなるほど老朽化や損傷が進み、利活用も難しくなります。町としましても、早めに空き家・空き地バンクへ出していただくよう啓発を行っていますが、町独自の制度創設や支援について、山ノ内町空き家対策協議会の専門家の意見や他自治体の事例を参考に、県と相談しながら検討を行う必要があると考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） それでは、大きな1、(1)の③移住フェア等の取組状況につい

て、町長答弁に補足してお答えいたします。

町では、移住を検討されている方に当町の魅力を発信することを目的としまして、昨年は5回のイベントに参加しております。毎年7月にふるさと回帰支援センターで行われます「信州で暮らす働くフェア」は参加者が多く、声かけもしやすいということから、自治体名の認知度が低い当町にとっては、最も参加の意義があるものと考えております。

また、県主催の移住大相談会のほか、農林振興課と協力した就農相談会での対応、健康福祉課と協力し、婚活移住イベントに参加しております。いずれのイベントでも相談者のリストを作成いたしまして、町が行う移住関係イベントなどの告知に活用しております。東京のふるさと回帰支援センター、名古屋及び大阪にある県の移住交流サポートデスクに配置されている県の移住相談員の方とも随時情報を共有いたしまして、移住希望者への対応に当たっております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 農林振興課長。

農林振興課長（金井哲也君） 畔上恵子議員のご質問にお答えいたします。

大きな1の（3）観光や農業など産業の活性化推進への具体的な事例はとのご質問でございますが、本年の7月に東京にて開催されました就農相談会へ相談に来た方へ、山ノ内町において農業をするための利点としまして、かんがい用水の設備が充実していること、また、温暖化の中でございますが、昼夜の寒暖差や標高などに恵まれた環境、また、農産物の品質の高さなど、山ノ内町は農業をする上での適地であることについて説明をPRさせていただきました。

この相談者のうち、町への移住を含めた就農希望の相談が8月末で2組ございました。未来創造課が企画するオーダーメイドツアーに来町していただく中で、町への移住、就農するための環境や果樹園の案内を行い、いずれの方も就農を踏まえた移住に前向きにご検討いただいております。

今後につきましても、移住と就農を絡めた人材確保の機会の創出や、受入態勢の充実を図ってまいりたいと考えております。

以上となります。

議長（白鳥金次君） 経済振興課長。

経済振興課長（田村清志君） 1の（3）の観光についての具体的な事例についてですが、令和6年12月の議会で湯本るり子議員のご質問でも町長がお答えしておりますが、山ノ内まちづくり観光局としましては、野菜・果物市会と連携しながら、地域の農産物を道の駅で販売いただき、観光と農業が連携した運営をしてくれています。また、観光局におきまして、特産品を原材料とした新商品の開発を進め、志賀高原産のネマガリダケを使用した混ぜご飯の元やメンマ風の総菜の販売予定であります。一部の商品はふるさと納税の返礼品に登録していただくよう調整を進めているところであります。

そのほかに、湯田中駅構内にありますエキナカ山ノ内の店舗では、信州牛と雪代米を使用したお弁当を開発し、7月下旬から販売しています。

今後も観光局が管理する施設において地域の農産物を販売しながら、地域産業の活性化に努めてまいります。

次に、（４）地域雇用が永住につながる施策はとご質問ですが、地域雇用を永住につなげるため、町内産業の振興と生活基盤の確保を両輪として取り組んでおります。経済振興課では、商工会との連携を密にし、経営改善相談や地域振興事業など町内企業の安定経営に資する施策・支援の充実を図るとともに、移住希望者や若者など、企業を志す方へは事業計画作成などの相談体制を整え、安定した就労を支援しています。

さらに、空き家再生事業補助金や起業チャレンジ支援事業補助金、テレワークオフィス開設支援事業補助金など、経済的な負担の軽減を図っています。

また、主に観光や農業といった町基幹産業の人材確保には、山ノ内マッチボックスやおてつたびを活用し、柔軟な働き方を可能とすることで地域と関わる関係人口の創出を目指し、短期就労から長期雇用へのマッチングを推進し、地域雇用と永住促進を図ってまいります。

以上です。

議長（白鳥金次君） 再質問を認めます。

畔上恵子議員。

２番（畔上恵子君） それでは、再質問させていただきます。

当町は、湯田中、渋温泉、また志賀高原、北志賀高原など、観光資源にとっても恵まれたすばらしい地域であります。人口が年々減少し、若年層の流出と、また出生数の減少が顕著であります。令和７年１月から６月までのこの上半期の出生数が、厚生省の調べでは33万人、前年同期比3.1%減の33万9,280人。上半期としては過去最少で、４年連続で40万人を下回ったということで、この先月の一般紙の記事に掲載をされておりました。

また、高齢化率も全国的にも上昇傾向にあり、当町でも既に40%を優に超えている状況だと思います。また、さらに後期高齢者の増加に伴いまして、さらに増加している傾向にあるかと思っています。このままでは地域のコミュニティーの維持や、また、観光産業を含む町の経済の持続が危うくなることが懸念をされます。

人口減少は地域共通の課題でもございますが、町の強みを生かした対策を講じていかなければいけないと考えております。

そこで、（１）番の移住・定住促進策の強化はということで、先ほど答弁をいただきましたが、令和６年度の改修補助数というのはどのくらいあったのか、まずその数をお聞きしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

空き家活用改修等事業補助金の令和６年度の実績につきましては、ゼロです。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

２番（畔上恵子君） 町では、現在上限額80万円ということですが、令和６年度の改修補助件数

はゼロということで、今年度に限っては、これからなのかなとは思いますが、上限80万円ではあるんですが、この物価高騰が続いている状況の中で、もう少し補助額を拡充されるというお考えは。

先ほど町長の答弁の中ではないというふうに伺っていますが、その辺を聞かせください。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

先ほど町長から申し上げたとおりです。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） 実際、まだ改修がない段階でもありますので、今後、増えてくるようであれば、金額の面も考えていただければありがたいかなと思います。

②番目の移住体験住宅の整備に関してであります。これは須賀川の田舎暮らし体験住宅ということで、すがかわんちにあるということで、昨年度の利用実績は61日ほどと伺っております。今年度の利用というのは、今現在の時点では何件ぐらいございますか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） 申し訳ございません。3年間の平均は持ってきているんですが、今年度の利用実績は持ってきておりませんので、後ほど資料提供したいと思います。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） それでは、整備に関してなんです。山ノ内町はとても雪の多い地域ですので、いろいろな面で整備が必要かと考えております。今後のことも含めましてどのような点に特に重点を置いて今後行っていかれるのか、その辺をお聞きしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） 移住体験住宅の目的といたしましては、候補地探しや地域のことをよく知りたい、体験したい方に向けた建物でございますので、そちらの目的をしっかりと我々も利用いただく方も承知した上で進めていくことが重要かなと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） それでは、③番の移住フェアに関してお聞きをしたいと思います。

年に5回イベントに参加されているということでございますが、主に東京、名古屋、大阪等でも行われておりますが、県内で行うということはあるのでしょうか、その辺お聞きします。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） イベントに関しましては県外が主だと思います。当然県庁のほうとは連携してございますので、その辺りは県外から人を呼び込むという目的では県内でのイベントというものについては多くないと思います。

ただし、町が独自に行っております体験ツアーなどは、担当のできる範囲で積極的に行っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） 山ノ内町は本当に自然豊かで、温泉もあつたりして、すばらしいところだと思いますので、今現在行われているイベント等に参加しながら、また推進をしていただければありがたいと思っております。

それで、これから町外の方が本当に山ノ内町に住んでみたいと希望されるような移住体験をいろいろ企画していただきながら、また、PRをしていただきながらお願いしたいと思いますが、今まで行ってきたPRですか、それ以外、それ以外といいますか、新しい発想の下での移住につながるようなフェアの仕方といいますか、もしあれば、お考えであれば、お聞かせいただけますか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） 逆に議員から提案いただければ、また検討したいと思えます。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） 私もまたしっかりと提案できるようにしていきたいと思えます。

それでは、（2）番の子育て・教育環境の向上についてであります、①番の学童保育の人材不足に向けた取組ということで、今、放課後児童クラブも6か所ありますが、大分支援員の方々も高齢化の方が大勢いらっしゃる、また、本当にぎりぎりのところで回しているという状況をお聞きしております。

それで、この人材不足に向けた取組、行政としてもいろいろされていらっしゃると思うんですが、この人材不足になる要因といいますか、それはどこにあるとお考えでしょうか。

議長（白鳥金次君） こども未来課長。

こども未来課長（望月弘樹君） お答えします。

児童クラブにつきましては、平日午後2時半から6時半というようなことになります。1名男性の方もいらっしゃるんですが、基本的には女性の方が皆さん面倒見てくださっておりまして、やはり生活の形態の中で食事の時間ですとか、いろいろな不都合があるのかなというような感じで受けております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） なかなか本当に常勤で1日を通してフルに働ける方というのは限られてしまって、あとは本当に子育て中のお母さんだったりそういう方々、また、保育士の資格を持った方とか、そういう方々が短時間で働くような形で回しているような現状だとは思いますが、これからますます重要というような、大切かと思っておりますので、人材確保していくのは大変なこととは思いますが、また引き続き人材不足に向けた取組はよろしくお願ひしたいと思えます。

②番の保育料・給食費の助成の拡充を検討する考えということですが、こちら先ほど町長から現在の保育料、給食費についての答弁を伺っております。段階を踏んで、徐々に保護者負担の軽減につながっていると思います。また、幼児教育、保育の無償化でも町としては独自に副食費の事業もやっているということで、これに関してはとても感謝を申し上げます。給食費の無償化に向けては、今、国のほうでも検討されているようでありますけれども、特に給食に関しては、成長期の子供たちの栄養バランスというのは、成長していく過程ではとても重要だと思っております。その辺も含めながら給食費の無償化に向けては検討をしていく必要があると考えておりますので、お願いしたいと思っております。

小・中学校の給食費に関しましても、今年度は物価高騰対応重点地方創生臨時交付金を充当していただきましたので、これは保護者の方にとってはとてもありがたいことと思っております。なかなか国としても検討はされているようですが、はっきりとした方針がまだ示されておられません。一日も早く近隣の市町村も無償化にされているところもございますので、当町の財政のこともございますが、その辺も踏まえながら、一日も早く無償化に向けて実現することを願っていきたいと思っております。

(3) 番の観光や農業など産業の活性化に向けての具体的な事例に関しては、今、お話伺ってよく分かりましたが、この相談会も7月は東京で行われていますということです。8月に2組の移住希望者の方、就農希望者の方がいらっしゃるということで、少しずつではあるけれども、認知度が上がっているのかなど。その成果はやはりこういうものがあるからだと思うんですが、町として特に農業に関しては、新しい新規の就農者、何人ぐらいを目標に今年度は考えていらっしゃるのか、その辺をもし分かればお聞かせいただきたいかと思います。

議長（白鳥金次君） 農林振興課長。

農林振興課長（金井哲也君） お答えします。

まず、今年度の令和7年度4月からの新規就農者の数でございますが、今10名となっております。目標はあと2人増やしていきたいと、12名にまでしていきたいと考えておりますので、また地元の農業委員会の皆様からの情報等得ながら目標を達成していきたいと考えております。以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2番（畔上恵子君） ぜひ、また引き続きお願いをしたいと思います。

(4) の地域雇用が永住につながる施策というところでちょっとお聞きしたいんですが、今インバウンドで外国人のお客様も大勢見えていらっしゃる中で、外国人の方もここで働きたいと思っていいらっしゃる方も中にはいらっしゃるかもしれないんですが、外国人の人材確保、また育成に積極的に取り組んでいくことも大事だというふうに私は考えているんですが、その点についてお伺いしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 経済振興課長。

経済振興課長（田村清志君） お答えいたします。

観光も農業もそうなんです、人手不足という中で、外国人という活用の中では、技能実習生ですとか、特定技能といったものがありますので、そういったものを活用できればいいかなと考えております。

町ではマッチボックスとかおてつたびというものやっているんですが、それは短期的、臨時的なものです。外国人の技能実習ですとか特定技能を活用することによって、安定的、長期的な雇用にもつながってこようかと思えます。

そのような中で、この制度の説明会ということで管理団体さん2者に町に来ていただきまして、説明会を開催いたしました。

そこには、町内の様々な事業者さんが参加いただきまして盛況だったということ、またその後、それぞれ管理団体さんと個々の事業者さんが細部についてお話をされ、今後の進め方について協議を行っているというふうにお聞きしております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2番（畔上恵子君） 今、人口減少もしておりますし、ましてや今この時代、外国人の方のお力をお借りしないとどこの分野もとても大変な状況にあるかと思えますので、特にまた今、町でもマッチングボックス、それからおてつたび等もやっておりますが、やはり長期の滞在にはつながっていかないところもありますので、またそんなところもお考えいただきながらお願いしたいと思うんですが、また、外国人の長期滞在を移住につなげていくためにはどうしたらいいかというその取組です、先ほどもちょっとお話はあったんですが、その上で今、町営住宅山ノ内町にございます。そういうものを長期滞在を希望しているような方々に活用してもらうとか、そういうお考えとかは町としてはございますか。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） お答えします。

町営住宅につきましては、公営住宅法に基づいて運営しておりますので、今のところはそのような考えはありません。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2番（畔上恵子君） それでは、観光と定住を結びつける戦略プランの策定みたいなものは、もしあればお聞きしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 経済振興課長。

経済振興課長（田村清志君） なかなか定住につながるというのは難しいんですが、そのきっかけの一つとしては、おてつたびですとかマッチボックスというものが重要かと思えます。特におてつたびにつきましては、旅をしながら各地を巡る中で、山ノ内町魅力的なものだなと感じていただければ、そこからおてつたびから始まって正規社員、そういった道も開けていくのではないかと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） やはり定住に結びつけていくことが大事だと思っておりますが、一つの提案としまして、観光と農業を組み合わせた兼業モデルみたいな推進、結局冬はスキーとか観光できるんですが、夏は農業一筋、中間がちょっと空いてしまうんです。なので、兼業、秋冬は観光、春夏は農業みたいな感じで、1年を通して仕事をしながら定住につながるようなものができればいいかなと思うんですが、この兼業モデルの推進というのは、どのようにお考えでしょうか。

議長（白鳥金次君） 経済振興課長。

経済振興課長（田村清志君） 先ほどの湯本議員の質問の中で若干話出たかと思うんですが、特定地域づくり事業協同組合というものがございます。これにつきましては、組合が年間を通じまして正規職員を採用し、組合員であります事業者さんが人手不足のときに派遣するというような形になります。夏は農業、冬はスキーといったような使い方になろうかと思えます。

このような形の中で推進していければいいのかなと思っております。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） それと、温泉とか自然を生かした移住プロモーション動画みたいな製作、昨年たしか一つ作成されたと思うんですが、今年度に関してはこのような動画の製作とかはある予定でしょうか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） 詳しいスケジュールは今、手持ちにございませんが、適宜進めていきたいと考えております。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） 地元住民だけでなく、外国人材となり得る方々も、また、新たな担い手として受け入れる体制づくりも重要と考えますし、また、人口増につながる推進を引き続きお願いしたいと思います。

それでは、次に、2番目の空き家抑制対策についてお伺いします。

人口減少と高齢化が進む現在でございますが、空き家の増加は全国的にも深刻な社会問題となっています。山ノ内町では観光地として訪れる方が多い一方で、親世代から住宅を引き継いでも利用しないまま放置されるケースもあると思えます。これから空き家の調査を行う予定をされているということですが、過去の調査からも住宅の長期末使用、また、管理不全の事例が増えているようなんですが、今後の実態調査はどのタイミングで実施されるのか、お伺いします。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） お答えいたします。

今、山ノ内町空き家等対策計画というのが令和5年につくられていまして、令和9年にまた

改定しますので、その前段として来年度空き家の調査を実施したいと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） 令和 8 年度に実施される予定ということですが、調査箇所というのが何か所かというのは分かりますか。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） あくまでも住宅地、住宅に関する空き家ということで調査を考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） 町で把握されていない空き家もあると思うんですが、その辺というのはどの程度把握をされているのかお聞きしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） 地区の方からの連絡とか報告とかということで、ここに載っていない部分で把握している部分もありますが、詳細な数字としてはまだ把握しておりませんが、増えてはいると思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） 確かに増えていると私も思います。

それで、空き家を減らしていく取組はとても難しいと思うんですが、この辺の対策です、それは今後どのようにされていくのかお聞きしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） お答えいたします。

先ほどの町長の答弁の中にもありますが、あくまでも空き家といいましても個人の財産でありますので、町としてすぐ何とかできるとかそういうことはありません。どうしても危険空き家の状況になれば緊急措置、隣の民家等に影響する場合につきましては、そういったことで措置とかできますが、基本的には所有者の方に管理していただくのが原則なもので、あくまでも町とすれば、そうならないように周知していく、啓発を行っていきたいと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2 番（畔上恵子君） 今後も空き家が想定される物件というのはたくさん出てくるんじゃないかと思うんです。その辺の早期把握というのは、地元の方からの情報が一番だとは思いますが、その辺、例えば高齢者の方が施設だとかへ入所されるとか、あるいは転居されるようなケースも今後あるかとは思いますが、物件の早期把握に関してどのようにお考えでいらっしゃるのかお聞きします。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） 次の調査のときには、お話したように、介護の関係の各機関等のほうも調査しながら実態の把握に努めていきたいと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2番（畔上恵子君） 住まいの終活ノートという相続に関する情報をまとめたもの、それから相続登記とかいろいろな手続が、空き家に関して手続する際には必要だと思うんです。この住まいの終活ノートみたいなものというのは当町にはございますでしょうか。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） お答えします。

町ではないですが、県等で作ったものがあります。あとは、空き家すごろくとかそういったものも県のほうのホームページとかでもありますので、またご覧いただきたいと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 畔上恵子議員。

2番（畔上恵子君） それでは、時間があまりないので、（２）番の空き家が増加する可能性にどう対応するかということでお聞きしたいと思います。

①番の空き家利活用の補助制度など県との連携はということで、これ連携を取っていらっしゃるということで、北信連絡協議会です、これで進めていただいている、国の補助もあるということでありますので、本当、今後、空き家は当町に限らずとは思いますが増えていくかと思っておりますので、ぜひ引き続き連携を取っていただきながら進めていただければと思います。

また、②番の町独自で空き家発生を未然に防ぐための制度創設や支援の検討は、先ほど答弁いただきましたが、また引き続き行っていただくようお願いしたいと思います。

空き家対策は、発生してからでは多くの費用や、また、時間がかかると思います。発生を抑える段階から取り組むことが地域の景観の保全であったり、また、防犯であったり、防災力の向上につながるかと思います。そして、若い世代、そして移住者の定住促進にもつながっていくと思いますので、当町が持つこの観光資源、自然環境と調和した空き家活用の方向性を示すことで、空き家を地域の資源として捉えることもできるのではないかと考えております。

空き家対策は本当に時間と労力も使いますし、いろいろ大変な部分があるかとは思いますが、また引き続きお願いをしたいと思います。

最後に、町長にお聞きしたいと思います。

今後の人口ビジョンをどのように描かれていらっしゃるのか、その辺をお聞きしまして私の一般質問を終わります。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） お答えします。

今後の人口ビジョンということですので、私の人口に関する意見ということだと思いますの

でお答えしますと、日本全国的にもう人口は減っていくというのは、これは紛れもない事実ですので、うちの町だけが人口は増えるというのはとても思っておりません。ただ、うちの町の観光業、農業、それぞれの産業を維持するためにも、ある程度人口減少を鈍化させなければいけないということは、外国人にも頑張ってもらって働けるような、外国人が住みやすい環境づくりというものももちろん必要ですし、私の持論ですけれども、女性が活躍できる社会をつくらなければいけないということで、昭和の時代というのは女性が家にいるということが日本では当たり前ということを言われてきていまして、これで今、人材不足になってきて働き手不足になってきた社会の中で、今まで眠っていた女性の活用というものが非常に大きなところがあると思っていまして、そこを女性が働きやすいまちづくりということをしかりとすることで、人口は減ったとしても、しっかりと社会を維持できるような、経済を維持できるような、そういう構造をつくっていききたいというふうに思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 2番、畔上恵子議員の質問を終わります。

ここで昼食のため、13時15分まで休憩します。

(休 憩)

(午後 零時15分)

(再 開)

(午後 1時15分)

議長（白鳥金次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（白鳥金次君） 3番 小林仁議員の質問を認めます。

3番 小林仁議員、登壇。

(3番 小林 仁君登壇)

3番（小林 仁君） 皆様、こんにちは。3番 無所属の小林仁でございます。

傍聴席が異常な光景で、一般質問を始める前から、もう何かしでかしてしまったかと緊張がマックスでございますが、質問にいきたいと思います。

この夏、私には夢のような時間が訪れました。イタリアで暮らす長男が4年ぶりに帰り、オーストリアで学ぶ次男は4人もの友人を連れて戻ってきました。さらに、東京で暮らす三男も数日だけ帰省し、実に4年ぶりに3兄弟がそろったのです。家に響く笑い声、肩を並べてはしゃぐ姿、夜更けまで語り合う声、その一つひとつが胸を震わせ、ああ、この瞬間を永遠にと、心から願いました。

高校卒業後、長男を送り出したとき、ジローラモになってこい、一生イタリアで暮らすつもりで行け、そう私は声を掛けました。今となっては、この言葉を後悔しています。彼は、想像をはるかに超える成長を遂げ、仲間に恵まれ、職場に恵まれ、たくましく歩んでいました。

中学を卒業して送り出した次男には、友達を1人でも連れて帰れるような学校生活をと願いました。その願いどおりに、昨年は1人、そして今年は、4人もの友人が彼を頼りに日本に、

そして我が町に来てくれました。本当に気持ちのいいすてきな若者で、彼らが町の自然に触れ、人の温かさに触れ、心からの笑顔を見せてくれた。その姿は、この町の底力を示すものであり、父としての私に、大きな誇りを与えてくれました。

そして、東京に暮らす三男も、2日だけでしたが帰省してくれました。久々に3人の息子が並ぶ姿を目にしたとき、父としてこれ以上の幸せはないと胸がいっぱいになる時間でした。

しかし、その幸せは、同じ重さのさみしさと切なさを伴います。長男とも、次男とも、真剣にこれからどうするのか話し合いました。2人の答えは同じ、「帰国はしない」でした。それぞれイタリアで、オーストリアで、当分の間は自分の未来を切り開くという迷いない宣言。誇らしかった。けれども、父として胸をえぐられるような痛みがありました。すぐにでもこの町に戻り、一緒にいられたらどれほど楽しく幸せだろう。そう願ってもかなわない現実。言い表しようのない複雑な感情でした。

あっという間に、長男が戻る日に、成田空港で見送った帰り道、西の空に沈む夕日がゆっくりと光を失い、暗くなり始めた道を照らしていました。その残照は、私の胸に広がるさみしさと重なり、さらに胸を締めつけます。目の前に牛久大仏の姿が現れ、その大きな手のひらは、息子を抱きしめたいという私の思いにも見え、同時に未来へと背中を押す父の役目にも見えました。

「行け」と送り出したはずなのに、心のどこかでは戻ってきてほしいと叫びたかった。その矛盾も弱さも、全て大仏様に見透かされ、しかし責められるのではなく、むしろ温かく諭されているように思えたのです。大丈夫、光の道が待っている。彼の未来は必ず輝きに包まれると、この思いを胸に、私は強く思いました。

孫たちが帰ってきたくなる町にという町長のスローガンは、父として、町民として、まさに私が切実に願うものです。町長には、その語学力や国際的な人脈、広い視野というかけがえない力を、この町のために今までも惜しみなく注いでいただけてきましたが、ここからもう一段ギアを入れて発揮していただきたい。そして、私自身も、一議員として是々非々を貫き、この町の未来に真剣でいたいと思います。

ここであえて、議会の在り方についても触れさせていただきます。先般、町から申入れがあり、その後判明した事象について、議会全員協議会において、議長から当該議員2人に厳重注意がなされ、謝罪と釈明がありました。

当該議員2人の釈明は、全てが理解できないものではなく、反省も述べられていることから、きちんと町民の皆様に提示し、説明するべきと私は考え、訴えました。しかし、町民に示された回答は、事実を十分に伝えることなく、町民目線からはかけ離れた、非常に事務的で空疎なものでした。

町側から指摘されたこの件は、プレスリリースもされており、町民の関心も一定程度あったはずで、なぜこのような事象が起きたのかの反省の下に、丁寧かつオープンに説明するべきだったと考えます。万人に分かりやすく、身近な言葉で語り、疑念や憶測をいらずに刺激する

ような中途半端さだったと残念でなりません。今後は、町民目線で対応していただきたいと切に願います。

さて、冒頭の挨拶が長くなりましたが、本日は、批判を恐れず、議員として活動する中での違和感や疑問、これからの町に必要と思うことを、ちゅうちょすることなく問題提起として一般質問に臨みたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

1、民間救急の活用は。

(1) 民間救急の活用は。

(2) 高齢化と10年後を見据えての対策は。

2、土木懇親会の在り方は。

(1) 公平性と優先順位は。

(2) 財政健全化と整合性は。

(3) 町民生活とアンバランスはないか。

再質問は質問席で行います。

議長（白鳥金次君） 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長（平澤 岳君） 小林仁議員のご家族が非常にインターナショナルだということに驚いたとともに、今、非常にポエム的な挨拶文に感銘を受けました。

小林議員のご質問にお答えします。

1の民間救急の活用について2点のご質問ですが、救急活動の取決めは岳南広域消防組合に関するものとなりますが、現状の山ノ内町の民間救急活動についてお答え申し上げます。

(1) 民間救急の活用はとのご質問ですが、民間救急車は、ふだんよく目にする消防救急車とは異なり、サイレンがなく、利用者は症状が比較的軽い方が対象になると思いますが、サイレンの音で近隣に迷惑をかけたくないときや、あまり大げさにしたくないなどの心情から、救急車を呼ぶのにためらうときなどに役立つのが民間救急車の有料サービスであります。

山ノ内町としましても、移動が困難な方の病院までの交通手段として、民間救急の活用による新たな救急搬送に期待を寄せているところでありますが、全国的に民間救急の存在が、一般の方にあまり知られておらず、当町でも一定の方が利用されているようですが、まだまだ利用を検討する方が少ないのが現状だとお聞きしております。

次に、(2) 高齢化と10年度を見据えての対策はとのご質問ですが、これからの高齢化社会が進み、単身世帯の増加など、社会情勢の変化に伴い、救急搬送に求められるニーズも変化することが予想されます。

民間救急、介護タクシー、公的救急車は、それぞれ異なる目的と内容を持つ搬送サービスですが、民間救急は、特に主に緊急性が低いものの、救急の専門知識を持つ人員や医療機器が必要とされる方の搬送に、介護タクシーは、主に移動が困難な高齢者や、車の乗り降りが困難な

方のために、消防の救急車は、早期に医療機関まで搬送する公的なものであります。

山ノ内町としては、それぞれの条件に合わせた搬送方法を、町民の方に選択いただけるよう、関係部局や関係機関と連携し、広報したいと考えております。

また、本質問とも関連いたしますが、救急搬送について迷った際は、長野県救急安心センター事業、大人の窓口がハッシュタグ7119、小児の窓口、ハッシュタグ8000に電話していただくと、平日の病院が終了した午後7時から翌朝8時まで、土曜、祝・祭日の午前8時から翌朝8時までの間、相談窓口が開設しております。

看護師等の相談員が適切なアドバイスをしてくれるということですので、急な病気やけが等で救急車を呼ぶか、病院に行くか迷ったときに活用していただけるよう、こちらも関係機関と連携しながら周知したいと考えております。

大きな質問2の土木懇談会の在り方については3点のご質問ですが、町では、翌年度の町単独土木事業調査及び長野県単独事業計画策定のため、各地区から町、県が管理する道路、河川などに係る修繕等の要望の調書を提出してもらっており、要望がある地区とは、現地確認や土木懇談会を実施しております。

なお、修繕等の順位につきましては、地元要望を優先し、地元負担金等の調整を行った上で、地域が偏らないよう施工箇所を選定しております。

多額な費用を必要とする事業も多いことから、大きな事業につきましては、実施計画に計上し計画的に実施し、緊急性や危険度の高い修繕につきましては、補正予算を含め、当年度の予算内で対応しております。

事業費の財源については、補助金や起債を活用し、財政負担の軽減を図っており、年度ごとの事業計画を立て計画的に進めるなど、財政健全化との整合性を図りながら予算執行をしております。

以上となります。

議長（白鳥金次君） 再質問を認めます。

小林仁議員。

3番（小林 仁君） ありがとうございます。丁寧に答えていただいて、そもそも、冒頭の挨拶長くなりましたが、通告後すぐに、なかなか答える内容がありませんよということで指摘いただきまして、時間をちょっと調整するのに長く挨拶してもいいかなというふうに思ったんですが、答弁もここまで丁寧にされてしまうと、ちょっとこの先深くお聞きするところもなくなってしまいうんですが、民間救急の活用に関しては、先月の議会だよりで、みんなのひろばという紙面で扱わせていただいて、民間救急の代表の方にインタビューする機会をいただきました。

その中で、お聞きしていたところによると、やはりご自身も、そもそも消防で活躍されていて、その中でいろいろと矛盾点もあり、こういった形が、自分ができる最善ではないかということではじめられた。町に対する情熱も愛情も非常に感じる内容でありましたし、現場における

問題点も非常に理解できるものでした。

ですので、今回質問をしたかったのは、当然、公的にある消防と連携するというのが、現状では難しいというところも理解していますし、そういったことがすぐに可能ではないということだと思うんですが、何と言うんでしょうか、周知。もう少し積極的に、今現場の消防士の方々も、当町ではありませんが、ほかの自治体では、例えば病院に通院するために救急車を呼んでしまうだとか、入院する支度をもうして待っていたりとか、そういった形で、適切な利用が行われていないというケースがまれにあるということも、全国的に報じられているところだと思います。

そういった中で、2番にかかってくるんですが、今後、高齢化も進み、10年後を見据えていったときに、財政的にもいろいろと負担が増えてくる中で、民間救急はお金がかかるけれども、公的な救急車はお金かからないというような誤認が定着していて、民間救急がこのまま活用されていかないというようなものも問題かなと思います。

ただ一方で、命に関わることですので、やはり慌てて救急を呼ぶということを理解しないわけではありませので、どういったケースで、どのように民間救急を利用されていくのかというところは、非常に選択肢が、コンテンツとしてはたくさんあると思いますので、周知することによって理解を深めていただけることかと思っております。

町として、今も少しありましたが、積極的に民間救急、または介護タクシーといった形で運営されているかと思えますけれども、もう少し積極的に周知、広報していただくことは可能ですか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 議員のおっしゃるとおり、先ほど話したように、民間救急、介護タクシー、公的救急車と3つチョイスがあるわけですが、先日消防と話したところ、やはり、119番で救急車が来たところ、もう入院する準備万端で、かばんを持って玄関先に立っているケースがあったということで、なかなかそういう事例を町側からどうのこうのはできないんですが、民間救急と介護タクシーの存在をしっかりとPRすることで、より活用していただけたら、公的な救急車の適切な使い方につながるよというPR業務というのを、我々のほうでもできると思いますので、引き続き広報紙やLINEなど、町の持っている媒体を使って積極的に説明していきたいと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 小林仁議員。

3番（小林 仁君） お聞きしていると、本当に何数十年ぶりに介護タクシーとして利用して、お墓参りに行かれたりとか、そういった側面もありまして、本当に多岐にわたって高齢者の皆様の利便性を高めていただけるんじゃないかと思えますので、誤解を解きつつ、いろいろと周知をしていただければと思っております。

2番目、土木懇談会の在り方ということで、ここら辺、本当に批判がこれから出てくるか

も知れませんが、恐れずに、私の違和感として感じたもので、お聞きしたいと思います。

1 番の公平性と優先順位は、2 番の財政健全化と整合性は、町民生活とのアンバランスはないかという 3 番目、ほとんど同じ内容の中に含まれているかと思うんですが、私の周辺では、私世代からもう少し下の方の声が非常によく届くのですが、若い子育て世帯だとか、若い方、こういう方たちが、こういうことで、自分の自宅周辺や通勤時の周辺で困っていることがあっても、どこでこういうことって、地区で拾っているのかというのが、あまり分からないと。

自分が町に直接伺って話を聞いてもらっても、同じように扱っていただけるのかというような疑問を投げかけられました。そいったところ、今どのような形になっているか。お聞きしてよろしいでしょうか。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） お答えします。

一応、土木行政の道路と、施設的な河川等のそういったものにつきましては、一応毎年、先ほども町長から話がありましたとおり、区、組のほうに上げていただきまして、それを要望として上げていただいたものについてということで調査しております。

そういったことで、そういったふうにルールになっているんですが、若い人たち、あまり区のことに関心がないような人たちにつきましては、そういったことはちょっと分からないと思いますが、そういったことにつきましても、また区のほうにもよく周知して、皆さんに周知されるようにということで、そういう機会があればまた、そういったことで区長会等にも周知したいと思いますが、そういったふうになっていますので、あくまでも個人的なものにつきましては、本当に内容にも一応よるんですが、緊急な道路陥没等、あとまた水路のふたが壊れているとか、水路が壊れて水がおうちに入っているとか、そういう緊急なものにつきましては、本当に、そういったものは町が対応しますが、なかなか、側溝の整備とか道路改良とか、そういったものにつきましては、お金もかかりますので、地元の負担等も求められるものもありますので、そういったものにつきましては、あくまでも区を通してということでルールでやっておりますので、その辺周知をいただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

議長（白鳥金次君） 小林仁議員。

3 番（小林 仁君） 承知いたしました。

議員になってから 3 年、こういう土木懇談会と地区のほうの土木懇談会というところ、顔出させていただいたんですが、私初めて伺ったときに、地元の沓野の懇談会で天川の急傾斜、ここはお 1 方、私有地で、竹林だったか雑木林だったかというのがあったかと思うんですが、この方の意向が明らかにならないとなかなか進みませんよという、当時説明もありつつ、でも急を要しますよということであったと思うんですが、先般、地区で説明会がありまして、急傾斜の工事にもう入るということで、当該私有地をお持ちの町民の方のご協力があって、初めて成り立っているかと思っています。

そこでちょっと一つお聞きしたいんですが、私ちょっと違和感があるのが、何度も何度も改善されたというか、対応していただいたにもかかわらず、何度も何度も同じ内容が上がってくると。そういう事例は今までありますでしょうか。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） お答えいたします。

土木懇談会の後等で、また今年緊急にやらなければいけないところとか、そういったものの回答のほうは出しておるんですが、必ず出すようにしております。

その中で、継続のものもあれば、またもう少し様子見と、緊急にやらなければいけない、来年度また計画してやるということ等、そういったことで回答はしているんですが、そういったものはなかなか、組の役員さんも毎年毎年替わるということで、そこら辺が引継ぎ、なかなかうまくされていなかったりということもあるかなということで、感じることはあります。

以上です。

議長（白鳥金次君） 小林仁議員。

3番（小林 仁君） 区の役員さんも、地元のために本当に私的な時間を割いて励んでいただいていますので、批判する気は全くないんですが、ただ問題点として、私が見ている限り、こういう形でやりましょうという丁寧な説明も担当の課長さんからあり、その場にいた皆さんも、確かにそれはそうだということで理解したにもかかわらず、その次の年に改善されて、リクエストどおりになっているのに、上がってきた内容は、前段のものとこうしてほしいといった内容に戻っていたりとか、こういう重複した、何と言うんですか、改善したにもかかわらず引き継がれていなくて、もう一度同じ内容が上がってくるというようなものというのは、非常に違和感がありまして、こういったところを町当局からもしっかりと指摘しつつ、指導していただきたいなと思っております。

もう一つは、改善するに当たって、町側が全く地元の方に、こうしますという説明なく作業を進めてしまうといったこと等ございますでしょうか。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） 分かっている範囲では、なるべく回答のほうはするようにして、やるようにしていると思いますが、そういったことがあると指摘があれば、極力そういったことで必ず連絡してやるように心がけております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 小林仁議員。

3番（小林 仁君） 私が現場で見て聞いている限りは、町の方もその場でこれが一番最善策だということを地元の方からの説明を受けて、皆さんで知恵を出しつつ、対処されていたというふうに記憶していました。

それにもかかわらず、今回これじゃだめだと。またこういうふうにしてほしいといった同じ内容で、また上がってきたりとか、この辺も非常に違和感があって、なぜこの公平性とか財政

健全化とつなぎ合わせたかという、こういう、言葉がちょっとあれかもしれませんが、無駄と言いますか。

皆さんで合意しながら進めたにもかかわらず、また役員の方や地元の感覚が違ってくると、また同じ内容が上がってきて対応しなければいけないというような矛盾というのは、非常に町としてはメリットがないかなというふうに考えますが、今後、そういったところはきちきちと精査しながら対応していただけますでしょうか。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） お答えします。

議員さんも地域の代表ということで、出席いただいていますので、その辺、また組との町の調整役ということでよろしくお願いします。

議長（白鳥金次君） 小林仁議員。

3 番（小林 仁君） 私のほうも、当日現場でも指摘させていただきましたし、気になるところはこのような形でもどんどんと追及して行って、改善をしていけたらと思っています。

こういった土木懇談会の中で、例えば今回も、何か所も緊急性もあり、必要性もあるなというふうに思ったんですが、やはり地元の負担なんかも含めて、少し工期が遅れてずれ込んでいくというような対応になることも、少なくともあるんでしょうか。

議長（白鳥金次君） 建設水道課長。

建設水道課長（高木和彦君） 先ほどもおっしゃるとおり、負担金等、地元負担のほうも生じるものもありますし、予算も大きくなるものもあつたりしますので、その点ですすぐできるというものだけではありませんので、ご承知おきいただきたいと思います。

議長（白鳥金次君） 小林仁議員。

3 番（小林 仁君） 私、現場で見ている限り、町の皆さんは本当に私なんかよりも、お恥ずかしい、反省しなければいけないんですが、知識、地元の環境ですとか、もちろん工法含めて、技術的なものも含めて、知識が深い方が多くいらっしゃるって、的確にいろいろとアドバイスしながら土木懇談会進められていると思います。

ただ、残念ながら、なぜこのように今回、土木懇談会の在り方を取り上げたかったかと申しますと、今回、私が参加した中で、こういった話がありました。ご自身たちの地区のいろんな要望は全部ぱ一つと上げて、最後の最後に志賀高原保育園の話が出まして、志賀高原保育園の子供の数が減ってきていると。志賀公園保育園の子供にこれだけ給食を作ったりとかという職員を充てるんだったら、こんなもの下から運んだほうがいいと、こういう提案がその場で出たんですね。

私は非常に、その場で言い返したかったんですが、また怒られるのも嫌だしと思いながらちょっと我慢したんですが、町民生活とのアンバランスはないかというのはこういった点で、申し訳ないんだけど、地元の方のわがまま、何度も何度も繰り返される要望よりも、志賀高原保育園のたった 1 人になった保育園児にも温かいご飯を届けてほしいなというふうに切に願

っておりますので、ぜひともそういったところ、町長、ぶれずに、何とか迷わずに、その方向で進めていただきたいと思います。いかがでしょうか。

議長（白鳥金次君） 平澤町長。

町長（平澤 岳君） 議員のおっしゃるとおり、町の仕組みとしては、土木懇談会でそのような意見が出たとしても、それは一意見として聞きはしますが、それが即座に反映されるということとは多分なくて、しっかりと子供たちのことを考えて年中動いている組織がありますので、そちらにしっかりとした判断を委ねたいと思っておりますので、今後ともまた、地区でまたそういう話が出たら、議員としてもぜひ、地区の意見を議員としてもまとめていただいて、ぜひ我々の町と地区の間に入って頑張っていただければと思います。よろしくお願いします。

議長（白鳥金次君） 小林仁議員。

3 番（小林 仁君） 全体的に土木懇談会見させていただいて、本当に必要なところもありますし、道路の崩落に合わせて、当日副町長さんもいらっしゃって、ガードレールもそれに引っ張られるように落ち込んでいる部分なんかもあって、本当に緊急に対応していただきたいなというところを見る機会でもありますし、改善していくために必要なものだと思います。

それを実感しつつ、この辺の違和感はぜひ取り除いていって、なかなか厳しい財政の中だということなので、今後しっかりとこれが機能して、住民全体に広がる豊かなものになるようにということで、切に願ひまして質問を終わりたいと思います。

議長（白鳥金次君） 3 番 小林仁議員の質問を終わります。

ここで議場整理のため、午後 2 時まで休憩します。

（休 憩）

（午後 1 時 4 3 分）

（再 開）

（午後 2 時 0 0 分）

議長（白鳥金次君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議長（白鳥金次君） 9 番 渡辺正男議員の質問を認めます。

9 番 渡辺正男議員、登壇。

（9 番 渡辺正男君登壇）

9 番（渡辺正男君） 本日、ラストバッターを務めます日本共産党、9 番 渡辺正男です。

今日は、とても議場の雰囲気、何か不思議な圧力がかかってやりづらい部分もあるんですが、ちょっと質問項目も、今回たくさん上げてきてしまったので、時間がもったいないので早速入りたいと思います。

大きい 1 番、DX 推進の現状と今後の課題は。

- （1）DX 推進の現状把握と分析は。
- （2）デジタル推進アドバイザーの業務は。
- （3）生成 AI の導入・活用にどう取り組むか。

(4) 議会運営におけるD X推進の方向性は。

2 番、子供たちの学習環境整備にどう取り組むか。

(1) 全国学力テストの結果をどう分析するか。

(2) 放課後児童対策の現状は。

①放課後児童クラブの利用状況は。

②放課後子供教室の検討は。

(3) 子供たちは夏休みをどう過ごしたか。

3 番、スポーツ推進にどう取り組むか。

(1) スポーツ施設の充実、整備の取組は。

(2) やまのうちスポーツクラブの運営状況は。

①住民により主体的に運営されているか。

②正、利用、賛助それぞれの会員数は。

③部活動の地域移行の取組は。

④運営費用は。

⑤スポーツ協会との関係性と役割分担は。

以上です。

再質問については質問席で行わせていただきます。

議長(白鳥金次君) 答弁を求めます。

平澤町長、登壇。

(町長 平澤 岳君登壇)

町長(平澤 岳君) 渡辺正男議員のご質問にお答えします。

1 のD X推進の現状と今後の課題について、(1) D X推進の現状把握と分析についてですが、町としてはD X、いわゆるデジタルトランスフォーメーションのトランスフォーメーション、直訳すると変革となりますが、地域住民の利便性を向上させること、事務の効率化を図ることを最優先に考え、そこにデジタル化が有効であると判断した場合に、Dのデジタル技術を取り入れることを原則として進めるというふうに考えております。

現在、地域住民の利便性の向上を目的として、書かない役場、行かない役場をテーマとして、オンライン手続の拡充を進めているほか、まちづくり住民アンケートで要望の多かった文書配布の負担軽減などの検討に入っております。

今後の課題としては、住民サービスの課題を丁寧に棚卸しし、効率化を図るための課題の抽出、課題解決のための方策の検討を、通常業務の中で丁寧に一人ひとりが考える基盤づくりが課題であり、人口減少に対応したまちづくりの重要な作業であると考えております。

(2) のデジタル推進アドバイザーの業務はについてですが、6月の補正予算議決をいただき、アドバイザーを選定しております。

業務としては、先ほど申し上げた課題、D X化の意義を町職員全員が認識し、人口減少が進

む中で住民サービスの向上に向けて必要な手段を選択するための研修、またアドバイスをいただくこととしております。

(3)の生成A Iの導入、活用はどう取り組むかについてですが、既に町では担当課での生成A Iの実証利用に入っておりますが、今後、総務省が自治体向けに作成する生成A Iの利用手引きにより、整備を進めていきたいと考えております。

(4)の議会運営におけるD X推進の方向性については、町側から意見を申し上げる内容ではないと考えますが、議会運営における課題を明確にし、その手段としてデジタルを選択すべきかどうかを検討いただくという作業が必要であると考えております。

大きな質問2の子供たちの学習環境整備にどう取り組むかについての3点のご質問ですが、(1)の全国学力テストの結果をどう分析するかについては、7月末に結果が発表されましたが、現在、各学校で詳細な分析をしておりますので、その報告を受けて、教育委員会で取りまとめを行い、その後開催される町の学力向上検討委員会で対策等を検討すると聞いております。

(2)の放課後児童対策の現状はと、(3)の子供たちは夏休みをどう過ごしたのかについてのご質問については、子供に優しいまちづくりの実現に向け、各種施策を進めているところですが、(1)の詳細も含め、後ほど教育長から補足の答弁をさせます。

大きな質問3のスポーツ推進にどう取り組むか、(1)スポーツ施設の充実、整備の取組はとのご質問でございますが、第6次山ノ内町総合計画に基づき、既存施設の改修を進めるとともに、学校教育施設の有効利用を図りながら、利便性の向上に努めております。

現在は、上林総合グラウンドのテニスコート及びすがかわグラウンドの照明のL E D化の検討を進めております。

次に、(2)やまのうちスポーツクラブの運営状況はとのご質問でございますが、当該クラブは地域住民の代表等で組織する理事会の下、町からの補助金や会費などを主な運営費用としております。

設立当初から、町内スポーツ団体からのサポートをいただき、現在は多くの利用会員がスポーツ教室で活動しております。

また、部活動の地域移行の取組状況ですが、一部の部活動は近隣の中学校と連携した活動を既に始めております。それ以外の部活動についても、生徒や保護者にとってよりよい移行方法を現在検討しているところです。

今後も関係団体と連携を深め、町民にとってよりよいスポーツ環境の創出を目指したいと考えております。

質問の細部につきましては、教育長から答弁をさせます。

私からは以上です。

議長（白鳥金次君） 教育長。

教育長（竹内延彦君） それでは、渡辺議員からいただきましたご質問に、私からも補足の答弁をさせていただきます。

大きい2番、子供たちの学習環境整備にどう取り組むかについて、（1）全国学力テストの結果をどう分析するかについては、町長からも申し上げましたように、7月末に結果が公表されましたが、現在、各学校で内容を検証し、考察を進めております。

それを受けて、教育委員会でも分析、考察を加えて、今月下旬開催予定の山ノ内町学力向上検討委員会にて、課題と対策等を検討しまして、今後の学習環境の充実に生かしていきたいと考えております。

次に、（2）の放課後児童対策の現状はの①放課後児童クラブの利用状況はについてですが、8月末時点の各児童クラブの利用登録者数は、学校が夏休みの期間のみ利用する児童を含めて、東部の低学年が40人、東部の高学年が36人、西部の低学年が27人、西部高学年が12人、南部が33人、北部が15人となっております。3小学校の児童総数が372人ですが、それに対して163人の利用登録でございます。

次に、②放課後子供教室の検討はとのご質問です。子供たちの放課後の居場所づくりは大変重要な課題であると感じており、統合学校の開校に向けても、子供と大人が共に学ぶ環境づくりとしてのコミュニティスクールの構築と併せまして、放課後子供教室の実施も含めた放課後児童対策の拡充を検討してまいりたいと考えております。

次に、（3）子供たちは夏休みをどう過ごしたかとのご質問です。教育委員会が把握している学校外での様子としては、放課後児童クラブでの受入れをはじめ、生涯学習課関係では、いきいきふれんど事業、夏休み体験教室、夏休み映画会、子供アート体験教室など、各種体験の場を企画、提供し、また町内各地の子ども会育成会主催の恒例行事や、社会福祉協議会主催の職業体験等にも多くの子供たちが参加したと聞いております。

続きまして、大きい3番、スポーツ推進にどう取り組むかの（1）スポーツ施設の充実、整備の取組はとのご質問にお答えします。

町におけるスポーツ施設の充実、整備につきましては、社会体育施設としての上林総合グラウンド及びすがかわ体育館、グラウンドなどがございます。これら既存施設における必要な改修を行っていくとともに、小学校の統合による空き施設の跡利用も踏まえ、学校体育施設のさらなる有効活用を検討してまいります。

なお、現在の具体的な取組としましては、町長も申し上げましたが、既存施設の照明のLED化を進めております。

次に、（2）やまのうちスポーツクラブの運営状況は、①住民により主体的に運営されているかとのご質問でございます。やまのうちスポーツクラブは、地域住民が主体的に運営するクラブとして、クラブを運営する理事は、地域のスポーツ団体等の代表者として、スポーツ協会長、スポーツ少年団本部長、山ノ内つなぎびと、山ノ内校長会代表が加わっており、また町側としては、町長、教育長の私、総務課長、経済振興課長にも参加していただいております。これにより、地域住民の皆様の幅広いご意見が運営に反映されるよう構成されております。

次に、②正、利用、賛助それぞれの会員数はとのご質問です。8月18日現在の会員数ですが、

正会員、これは運営に携わる個人及び法人が8名。利用会員、教室などを利用する個人及び法人が89名。賛助会員、事業を賛助する個人及び法人はゼロとなっております。

次に、③部活動の地域移行の取組はとのご質問でございます。部活動の地域移行の取組は、学校教育係が主幹となり進めております。やまのうちスポーツクラブは、学校教育係からの要請に応じて移行を検討する部活動について、現在対応を進めております。

現在の移行状況ですが、野球部、陸上部は、既に近隣の中学校との合同活動に移行しています。美術部につきましては、文化祭が主な活動で、土日の活動は行っておりません。吹奏楽部につきましては、コンクールへの参加要項もあることから、当面は中学校での活動として続けるということです。

卓球部につきましては、スポーツ協会傘下の卓球連盟に相談しましたが、部活動指導者を担うことが困難であるとお話もあったことから、県が設置しました信州地域クラブ活動指導者リストを活用し、スポーツクラブが仲介に入り、外部指導者の候補者と、保護者や顧問等のマッチングをしました結果、現在は外部指導者が見つかりまして、卓球部活動の支援をいただいているという状況です。

また、スキー部につきましては、7月にスキー関係団体との打合せを開催し、地域移行に向けた検討を始めたところでございます。

次に、④運営費用はとのご質問でございます。今年度のクラブ費用は、町からの団体育成補助金として180万円、入会金及び利用者からの会費として180万円、前年度繰越金など合わせて、約620万円の予算規模で運営されております。

最後に、⑤スポーツ協会との関係性と役割分担はとのご質問でございます。やまのうちスポーツクラブとスポーツ協会は、ともにスポーツ振興を担う団体として密接に連携しております。スポーツ協会には、クラブ設立当初から役員として参画いただき、総合型地域スポーツクラブの設立支援や、運営アドバイスをいただいております。

総合型スポーツクラブは、地域住民が主体となり、他世代、多種目にわたるスポーツ活動を提供することで、地域コミュニティの活性化に貢献することを目指しています。スポーツ協会は、スポーツ団体間の連携を促進し、競技力向上やスポーツ環境の整備を支援することを主な役割としています。

このように、両者はそれぞれの強みを生かし、地域スポーツの振興という共通の目標に向かって協力し合っており、今後とも連携を密にし、町民の皆様が生き生きとスポーツに取り組める環境づくりを推進してまいります。

以上です。

議長（白鳥金次君） 再質問を認めます。

渡辺正男議員。

9番（渡辺正男君） それでは、届出順に従って、DX推進の現状についてお聞きします。

1番、このDX推進という聞き慣れない言葉、遠隔だとかデジタルというような話ですけれ

ども、具体的に町民の立場からすると、何が便利になって、何がこう省力化されるのか。

これは役場の皆さんの業務の効率というか、また働き方改革に資する部分というのもあると思うんですが、町民の皆さんが実際にこのD X推進、この改革が進んでいったときに、実際どんな便利な未来が待っているのかなという、その辺がちょっと頭の中で描けていないのかな。私自身もそうなんですが、特にこういうネット関係とか、デジタル技術について明るいそういう世代ではないので、この辺を、役場にとって何がこうメリットになって、町民の皆さんはこういうところが便利になりますよという、先ほど書かない役場、行かない役場と、これがキャッチフレーズになっていますが、この辺ちょっと具体的に、業務改善効果、それから町民の皆さんの利便性向上、この辺を分かりやすく説明いただければと思います。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えいたします。

まず1点目のどんな未来かということに関してですが、実際にどういったことを議員が考えておられるかちょっとよく分からないんですが、先ほど町長から申し上げたとおり、住民アンケートを取りましたところ、文書配布などの手間が非常におつくうだという方が結構いらっしゃったので、現在、総務課と広報の配布についてデジタル化を検討してございます。

あと、行かない役場、書かない役場につきましては、当初始めた頃にはほぼオンライン申請というのが5件だったかな、それだけだったものが、今は70件を超えるオンライン申請を実現しております。

ただ、現在は今のところオンライン申請を活用される方、実際に役場に来たい方、そういった方が混在されておりますので、町の事務としては倍になっているというふうに考えてございます。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9番（渡辺正男君） このD X推進にはいろいろお金もかかったり、国の制度等もあったりするんですけども、優先順位もあるでしょうけれども、必要な、例えばこういう改革をやりたい、それに必要な資金調達というのはどんなふうに考えればいいんですかね。

有利な起債だとかもあったり、クラウドファンディング的なものもあったりするんだと思いますが、どんな資金調達というふうに考えるんでしょうか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） こちらは、先ほど来、ご質問にあったような土木のものと同じように考えております。

ただ、今後、職員も減っていくであろうと。人口が減る中で、職員も減る中で、それをデジタルに代わりに使うということになるのかなと思いますので、様々な補助金、起債、単費、またクラウドファンディングなんかも使えるのであれば、様々なものを検討してまいりたいと考えています。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） デジタル推進アドバイザーさんは、ここで就任されたということでいいんですかね。どこに委託して、具体的に、例えばその業務の中でいろいろ提言なり、アドバイスをしてくれる立場だと思うんですが、この辺、実際にこの庁舎全体をまとめて、こういうふうにしたらという具体的提案というのはいつごろ出てくるんですかね。今、もう少しずつ出てきているのか、その辺をお願いします。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） お答えします。

こちらにつきましては、8月20日、プロポーザルのほう実施しておりまして、8月22日に業者のほう決定してございます。内容につきましては、先ほど来申し上げている職員の意識改革がメインになろうかと思います。

まずは6回ほど、全職員を対象とした研修会を行いまして、その中で自らの持つ業務の中で、非常に今、手間がかかっている。でもこれは何とかしたいということのを拾いまして、その後は個々にアドバイザーさんと相談をしながら、今年度中にある程度の方向性が出せればと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） 先ほどの課長の答弁で、オンラインされる方、直接来られる旧来の手続に来られる方、混在している中で、倍の手間がかかっているという話だったんですが、そんな話がありました。

本当にこの改革が済んで、業務の効率が改善して、例えば時間で千何百時間、1年間で削減できたとか、そういう効果を期待する向きというのがきつとあると思うんです。実際には今の状態ではその効率というのは、働き方改革も含めて、あまり効果が上がっていない過渡期だという、そんな考え方なんですかね。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） おっしゃるとおりだと思います。

変わるにはやはり時間がかかりますので、その辺はご理解いただければと思います。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） 先ほどの生成AIの導入についてなんですが、実証実験というんですかね、それに入ったという、国のほうの手引きに基づいて実証に入っているということなんですが、現実、どんな分野のどんな業務に、このAI活用というのはされているんですか。

また、この分野で使おうとしているか。その辺、全国の先進例とか、そういうものがあると思うんですが、こういうところに生成AI使ったら業務効率が、また利便性の向上が上がるんじゃないかという、その辺町とすれば、どんなふうになお考えですか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） その辺りをこれから詰めていきたいということで実証を行っております。

現在のところ、例えば議会の答弁書の作成ですとか、そういったところにも使えるのかなと思っておりますが、それにはプロンプターですとか、また現状を人間が目で見るとか、そういったところもございますので、現時点では、なかなか時間短縮につながっていないのかなとは思っておりますが、今後さらに様々な議会のデータなども導入される予定でございますので、その辺りは、徐々に効率化されるのかなと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） 全国の活用例とか先進事例なんかを見させていただきますと、文書作成というのが多いかな。やはり議事録であつたり、そんなもの。それから、市民だとか町民の皆さんにアンケートを取ったときの、その事由記載の部分を分類するという作業とか、そういうのに活用されたり、市町村ごとにそれぞれ行政に特徴があるんですが、山ノ内町の場合は観光と農業の町というようなことで、何を勉強させてどういう答えを導き出すかという部分で、観光、お客の流れだとか、インバウンドの動向だとか、そういったものを学ばせることで、ペルソナ分析というような言い方もあるんですが、そういう町を訪れる皆さんが便利に町の中を観光して歩けるようなマップだとか、パンフレットや何かをつくらせるというような、そんなことにも活用できるのかななんて思いますが、今後、実際に実証の実験中ですけれども、いつ頃をめぐりに本格導入を考えていますか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） 国のほうが、総務省が年内の要綱の公表ということで発表されておりますので、それに合わせて私どもも動いてまいればと考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） （4）の議会運営におけるD X推進の方向性なんですけれども、先ほど町長からは、議会のほうでD Xにふさわしいような提案をして判断をしていただければというようなことだったんですが、議員がタブレットを持つこととか、ペーパーレスにしていくことであつたり、動画配信というのも、町長やりたいけれども予算がかなりかかるので、一応ペンディングしたというような話でした。

議会の今行われている議事運営の文章だとか、先ほど、質問に対する答弁書作成とかに生成A Iが使えるんじゃないかという話がありましたが、私どもも全員協議会だとか、それぞれの委員会のちゃんとした議事録とかがつくられていないんです。この議事録作成というのは、A Iを使ってかなり精度の高いものがつくれるようになってきているという話もあるので、その辺の将来活用できる、そんな可能性についてはどんなふうにお考えですか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） 既に様々な商品が出ておりますので、そういったものも、いろんなものも試しながら、導入していくような形になろうかと思います。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） 一方で、生成 A I どんどん使えという立場では、私は決してないんですが、町民の皆さんの個人情報だとか、かなり微妙なものが A I が学習するときに入力しなければいけないことがあったり、それを、そのリスク、きっとガイドラインというのを、A I を活用するに当たって、そのガイドラインみたいなものをつくって、条例も必要になってくるんじゃないかと思うんですけども、その辺の考え方はいかがですか。

議長（白鳥金次君） 未来創造課長。

未来創造課長（堀米貴秀君） 今後示される国の要綱に沿って考えていきたいと思います。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） また、議会も D X 推進に関しては、何が必要で何を進めていくのがいいのかということは、議会内部でもしっかりと議論をして、なるべく費用がかからない中で、町民の皆さんに開かれた議会、つくっていられるように、また検討していかれればと思います。

それでは、2 番に移りたいと思います。

今回の学習環境整備というところで、全国学力テストなんですが、私は、この全国学テというのはあまり評価する立場じゃなくて、どちらかといえば、無意味に全国の競争をあおったり、マスコミもランキングとかを取り上げることで、秋田県が、福井県がというようなことが毎年出てきて、そういう県は、例えば先生が優秀だとか、環境がいいからだとか、少人数だからとかいろいろ言われることで、先生方もそれで自分たちの能力が判断されるみたいな部分もあったりして、私は決してこの学力テストという制度を肯定するものではありません。

ただ、この制度自体が悉皆調査と言うんですかね。結局、全国の全員の同じ小学校 6 年生、中学校 3 年生、同じ問題を全部、一通り 1 人ずつ全部やるんですよ。P I S A という O E C D の学力到達のそっちの調査は、物すごい項目を出題をして、複数の冊子に分けて全員に全問を答えさせるんじゃないやり方をして、でも分母をたくさん集める中で、全体の国の傾向をつかもうという、そういう、こっちの調査のほうがかなり正確性が高いなと思っているんです。

例えば、この学力テストで何が分かるかということを、義務教育の機会均等、その水準の維持向上から、全国生徒の学力状況を把握し、課題検証、改善、学校における児童の教育指導の充実、学習状況の改善等に役立てる。教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するという、一応大義名分があるんですが、どこを見ても、これは競争をあおるというようなことを一つも書いていないんですよ。

ただ、マスコミを通すと、ランキングだとか、そういうところに注目されて報道される。例えば、小さい小規模の学校でいうと、わざと成績の悪い子には試験を受けさせないとか、そう

いうことをして平均点上げるとか、そんなような弊害も出てきていて、子供たちにも大変なストレスがかかっているというふうに認識をしております。

この全国学力テストの、これから8月の後半に学力向上委員会が開かれるということなんですが、どんな観点、視点で、このテストの結果、それから子供たちの、例えば経済的に余裕のあるお宅のお子さん、そうじゃないうちのお子さんと正答率がどうかというような、そういう数字も出てくるんですが、どんな視点でこの調査結果を分析し、どういう視点で生かすというふうにお考えであるか、ちょっと教育長の見解をお聞きしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ご質問ありがとうございます。お答えいたします。

議員もおっしゃったとおり、この全国学力・学習状況調査の本来の趣旨は、国として、学習指導要領で指針を示しているその学習それぞれの単元が、どのくらい習熟できているかというようなことを、全国的に確認をするということが一つ主眼かと思っています。

ですので、議員おっしゃったとおり、自治体間で比較をするとか、当然受ける子供たちが毎年替わるわけですから、去年と比べていいとか悪いとかという、そういう何か比較論でこれを幾ら追求したところで意味がないなと、私も感想としては持っています。

それで、今後どのように現場と、この情報を共有しながら生かしていくかということですが、山ノ内町はそれぞれの学校規模も小さいですし、本当に一人ひとりの学習状況を丁寧に見ていくということが、まずできるなということの一つ期待しています。

それぞれテストの単元ごとに問題がありますので、例えば、クラスの中でこの部分が、この単元が特に全体を通じてちょっとまだ浅いとか、ここの部分はしっかりできているとか、教師として授業をつくっていく上で、その子供たちの理解度の傾向をつかむということは、このテストを通じてできるかなと思っていますので、1学期、昨年までの積み重ねも含めて、各学校小・中それぞれの学校、各学年で、まずは教師が自分の教え方にばらつきはないかどうかというようなところとか、子供たちにちゃんと意図している部分が伝わっているかどうかというのを、一人ひとりの解答を分析しながら、そこを丁寧に追跡していくというようなことが一つ重要なというふうに思っています。

また、もちろんその子供の中で、成長の度合い、例えば小学校6年生と中学校3年生ですので、今年の中学校3年生は4年前にも受けているという中で、同じ子供がこの小・中4年の間にどのように成長しているかということを見るということも一つ観点としてあろうかと思います。

あとは、私としては学力の部分以上に、学習状況調査の結果を重視しているところもありまして、例えば自己肯定感であったり、教師に、自分は、先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますかのような、そういった項目があるんですが、そこら辺で、教師と児童・生徒との信頼関係であったりとか、そういったところをしっかりと一人ひとり、顔を思い浮かべながら、教師がちゃんと分析していくということが重要であるというふうに考えております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） この学力テストは、学力というのはその子供が持っている能力の本当にほんの一部でしかないんですよね。しかも、国語、算数、理科一部、それなので、その学力の中でも一部しか測定されていないという問題点があります。

平均点を上げるにはどうしたらいいかという視点ではなくて、子供一人ひとりが本当に、よく分かった、すっとんと落ちたという理解がちゃんとできたか、学ぶことの楽しさを、ちゃんと楽しく学べているか、自ら学ぶ喜びというのを感じているかという、その辺をちょっと大事に考えていただければいいんじゃないかなというふうに思います。それだけ申し上げておきます。

それで、今回、放課後児童対策との関係で、放課後児童クラブと放課後子供教室の検討の部分、上げさせてもらいましたが、長期休業の時の放課後児童クラブ、どのくらいの子供たちがあれているのかなというのと、今年はとにかく夏が暑くて、猛暑日が連続して、子供たちは、朝のラジオ体操は熊が出るから中止、プールは熱中症になってしまうからプールもやらないということで、子供たちが本当にうちで何しているんだろうという、ちょっと心配になるような年だったと思います。

それだけ、子供たちが子供同士、会って一緒に遊ぶという機会が少なくなったんじゃないかなというのと、涼しいところを見つけて、文化センターとか図書館だとか、そういうところで友達と時間過ごすとか、そういうお子さんもいたのかなと思います。毎年こんな暑い年ばかりではないと思いますが、この子供たちの長期休業のときの過ごし方、こんなふうにしたらどうかとか、こういうところちょっと課題があるんじゃないかなとか、そういう部分がありましたらお聞かせいただきたいと思います。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ご質問ありがとうございます。

本当に今年の酷暑は大人であっても大変ですし、子供たちはなお、本当に健康管理に苦労していたかと思います。

議員ご指摘のように、放課後児童クラブは基本的には保育を必要とする児童ということが対象で、ほかの子供教室は誰でも通えるというところの大きな違いがありますので、今後放課後や長期の休みにおいて、本当に来たい子供たちが自由に気軽に参加できる、そういった居場所づくりというのは、ますます求められると思います。

それは、例えば少子化の中で、兄弟が少ないおうちも増えてきているというところで、人間関係をつくっていくということが、学校はもちろんですが、学校だけでない地域の中で、いろんな人たちとの関係の中で人間性を育むという点でも大変有益だと思います。

ですので、これはなかなか学校の考え方もありますし、今、長期休みの長い短いというところもいろいろ検討課題には上がってはおりますので、今後も各小・中学校としっかり意見交換をしながら、将来的に5年後には一つの学校になりますので、そこで地域としっかり連携した

放課後や休日等の子供たちを支える仕組みづくりということは、極めて優先的な課題として考えていきたいと思っております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） それで、放課後子供教室については、議会としては意見を、予算、決算、その部会見とかでも検討の意見をつけたことがあります。全国では今52%ですかね。1万3,800ぐらいな箇所の放課後子供教室というのがあります。いろんな形態があるんですが、体験重視の教室もあれば、全校がメンバーになっているというようなのもあったり、例えば勉強の補填というか補習みたいな感じの子供教室もあります。

近隣の自治体だとか、長野県でこの放課後子供教室というのは、どんな形で普及がされているのか。その辺の、どういうふうに把握をされているのでしょうか。

議長（白鳥金次君） 竹内教育長。

教育長（竹内延彦君） ちょっと長野県全体の細かな情報を今すぐに持ち得ていないので、あくまでも私個人の経験の中でお答えさせていただきたいと思います。

放課後子供教室というのは、基本的には行政だけでなく民間が主導して委託をするという形もあり得ると思っていますし、放課後児童クラブと放課後子供教室と、自治体として併設をしていると。子供たちが、時間になれば放課後児童クラブから放課後子供教室に移っていくんというような自治体も、私自身も経験をしております。

ですので、放課後子供教室にはいろいろな形態があるというふうに承知をしておりますので、後は実際のニーズですね。子供たちのニーズ。放課後児童クラブも登録は6年生までできるんですが、実際に高学年はほとんど利用がないというようなことも現状です。

ですので、なぜ高学年になると来ないのかという、逆に中身、コンテンツの魅力であったりとか、そこをしっかりとほかの子供教室のほうはカバーできるようなものをつくっていくというのが大切なと感じています。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） やはり、私どもは意見をつけさせていただきましたが、実際に親御さんとかがお子さんのニーズをしっかりと捉えないといけないと思いますし、子供の居心地のいい場所として、放課後児童クラブなり、また2つ選択肢があって、子供教室のほうは居心地がいいという子供もいるかもしれませんのでね。

ぜひとも、ちょっと選択肢を増やすような立場で、ニーズもしっかり把握した上で、検討いただければと思います。

それで、3番に移ります。

まず、そのスポーツ施設の充実の部分なんですが、昨年、上林のテニスコート、一番上のCコートですか、あそこを見させていただきました。あそこに何か、スケボーの施設ができたん

ですか、今どんなふうに使われているのか、お願いしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） お答えします。

今、スケボー教室で使わせていただいております、ちょっと道具が一部入っているんですが、それは中信地区のほうから使わなくなったということで、頂いてきたものを移設させていただいて、今、活用しております。

以上です。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） そのスケボーの教室が開かれているということで、そこには何人ぐらいの利用者があるんですか。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） お答えいたします。

現在14名の生徒さんというか、教室参加者がいらっしゃいます。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） 総合型スポーツクラブの運営状況なんですが、クラブマネジャーというのは、今不在ということでいいんですかね。資格なり、必要性というのはあると思うんですが、今クラブマネジャーをどうしようとしているか。どんな取組をされているかお願いしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） お答えします。

現在、今議員さんがおっしゃいましたとおり、クラブマネジャーさん、昨年の10月で退任をされてしまいましたので、現在、新しく今年度から採用というか、来ていただいております地域おこし協力隊の皆さんに、この10月から11月にかけてアシスタントマネジャーという、まずはそちらの資格を取っていただいて、後にそちらで選任をして、行く行くクラブマネジャーのほうにということで計画をしております。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） そのアシスタントマネジャーという立場の方で、t o t o の活動助成だとか、スポーツクラブの基盤強化事業、いろんな事業の申請をするときに、このクラブマネジャーの資格がないと、補助金というか、支援の申請もできないというふうになっていると思うんですが、それで間違いないですか。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） お答えします。

おっしゃられるとおり、アシスタントマネジャー等を設置をされないと t o t o の補助金がいただけないということになっておりまして、現在の計画では11月頃までにアシスタントマネジャーの資格を取得いただきまして、令和9年4月からアシスタントマネジャーとして雇用を、

一応4月1日からが、その資格が開始になるということですので、そこで半年間を、まずアシスタントマネジャーとして雇用するというのが条件だそうなので、t o t oの補助金については、早くとも令和9年4月からということになるかと思います。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9番（渡辺正男君） 一応、総合型は自主的な運営、自主財源を主とする運営、いろいろ理念があるんですが、設立準備の時には、独自のホームページがあったと思うんですが、今そのホームページというのは町のホームページに変わってしまったんですかね。その辺お願いします。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） お答えします。

ちょっと、私の中では、今、町のホームページの中に組み込まれていまして、各種教室の日程もそこに埋めさせていただいているという認識でおります。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9番（渡辺正男君） ネットから引っ張り出せる情報の中では、正会員、利用会員、賛助会員それぞれ、利用会員についてはその料金が申請用紙に書かれているので分かるんですが、正会員と賛助会員というのは、正会員は議決権がある、それで賛助会員は議決権がない会員ということで、先ほど賛助会員は0人という話でした。

これ、会費はいくらですか。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） お答えいたします。

賛助会員さんにつきましては、法人、団体の場合は1口当たり1万円、個人の場合は1口以上で1,000円という年会費となっております。正会員についても1万円ということになっております。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9番（渡辺正男君） このクラブの規約というのは、会員規約しかないんですよね。ネットで見える限りです。普通であれば、組織だとか役員だとか会議、それから会計、そんなものも全部含めて総則もあって、全体の規約というものがちゃんとあると思うんですが、この会員規約しかなくて、規約を破った場合には除名みたいなことも書いてあるんだけど、この会員規約じゃない組織全体を、どうやって決まりやルールの中でやるかという、その規約というんですかね。それはいつ頃しっかり定める、あれなんですかね。

今はあって、例えば公表していないだけなのか。その辺をお願いしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） お答えします。

すみません。ネットのほうに多分出ていないのかと思いますが、やまのうちスポーツクラブ規約というものは立ち上げ時につくってございますので、令和6年3月16日から、設立当時から施行となっております。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） 前のホームページに載っていたのかな。ちょっと組織側の全体像が分からないので確認したんですけれどもね。

実際に役員会、これ理事会しかないのかな。分かりませんが、新年度に入って設立されてから、この役員会というのはどの程度開催されて、どんなことを話し合っておられるのかお願いしたいと思います。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） お答えします。

既に理事会につきましては、今年度4回ほど開催をしております、事業計画を年度当初に決めております、基本的にはスポーツ文化教室の運営状況や、部活動移行に関するサポート状況、それから指導者交流会というようなものも開催をしております、理事会の中で最近協議をして行ったものは、山ノ内どんどんの中のスポーツイベント、こちらについて、理事会の承認をいただいて、先般、皆さんにスポーツに触れていただくということで開催等をしておりまして、今後につきましても、スポーツ講演会とか、そういったものをまた協議をして進めていく予定であります。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） 先ほど、賛助会員というのは、団体だと1万円、個人は1,000円。議決権がなくで利用会員でもない、お金を出すだけというのは、0人だと言うんですが、これというのは、こういう1万円払って利用はできない立場だけれども、議決権もないけれども、1万円は払うよという、そういう会員さん、ちょっとあまり具体的に頭に浮かばないんですが、これは募集しても集まらないということなんですかね。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） 賛助会員さんにつきましては、基本的には、クラブを支えていただくというようなところが一番大きな意味があります。一応賛助会員さんには特典というものも一部ございまして、1口当たりチケット5枚ということで、実際に教室に参加をいただけるような仕組みや、一応出てくれば、ホームページに賛助会員さんのお名前を上げていくというような、一応特典を、わずかですけれどもつけてございます。

議長（白鳥金次君） 渡辺正男議員。

9 番（渡辺正男君） それでは最後に、学校運動部活動指導士資格という何か制度があるらしいんですが、この制度の活用というのは検討はされたことはあるんでしょうか。

先ほど、地域移行の途中であるクラブも出たんですが、その辺、今後の検討や何かで、これが選択肢の中に入るのかどうかお願いしたいと思います。

これで終わります。

議長（白鳥金次君） 生涯学習課長。

生涯学習課長（山本佳史君） ちょっと、議員が言っているその活動者と一致するかは分からない

いんですが、先ほど、卓球部の指導者としてスポーツクラブが仲介に入りました関係では、信州地域クラブ活動指導者リストというのが県から配付をされておりまして、長野県に一応403名の方が登録をされておりまして、その方の中から町内で活動ができる卓球の指導者を選んで、学校と調整をしたという経過がありますので、そういったリストは県から配付されております。

議長（白鳥金次君） 9番 渡辺正男議員の質問を終わります。

議長（白鳥金次君） 以上をもって本日の会議を閉議し、散会します。

ご苦労さまでした。

（散 会）

（午後 2時56分）